

「魅力ある県立高校づくり第2期実施方策（案）」に対する御意見と県の考え方

1 意見募集期間

令和4年7月19日（火）～令和4年8月18日（木）

2 意見の提出者及び意見件数

211件（93人・7団体）

3 意見の反映状況

区 分	意見件数
A 意見を反映し、案を修正したもの	1
B 既に案で対応済みのもの	5
C 案の修正はしないが、実施段階で参考とするもの	88
D 意見を反映できなかったもの	98
E その他	19
合 計	211

「魅力ある県立高校づくり第2期実施方策（案）」に対する御意見と県の考え方

※御意見の趣旨を損なわないよう、一部要約している部分があります。

- (反映状況の区分) A: 意見を反映し、案を修正したもの
 B: 既に案で対応済みなもの
 C: 案の修正はしないが、実施段階で参考とするもの
 D: 意見を反映できないが、実施段階で参考とするもの
 E: その他

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
1	全般	校地、校名の決定に当たっては、客観的なデータを判断基準とし、その公開を絶対条件とすべきである。不正な介入が疑われるような事が無いようにして、あくまでも公明正大な審議、決定を下して欲しい。他県の例を参考にして、不正のないようにして欲しい。	新校の設置場所につきましては、案に記載したとおりです。校名につきましては、案が策定された後に着手する、新校基本計画において、その決定方法を規定する予定です。	E
2	全般	県立高校の統廃合に反対する。今、教員の長時間勤務が問題となっている。長時間勤務の最大の原因は、後進国並みの生徒数にある。生徒数が減っている今こそ、30人学級を実現するチャンス。統廃合によって、近くの高校や入りやすい高校がなくなり、高校進学をあきらめる中学生も出る。統廃合ではなく、子どもにも教員にも共にメリットがある30人学級を求める。	学校における「働き方改革」は重要なことと認識しております。そのため、学校における働き方改革基本方針に基づく取組を適切に推進するとともに、教育条件の整備についても、国へ働きかけるなど努めてまいります。	D
3	全般	公立高校だけで卒業者の減少を受け止めるのは不自然極まりない。元来、私学への補助は公立だけでは賅えないで行われていたことなので、そこに立ち返ることも念頭に置き、私学へ定員縮小の協力を強く依頼すべきである。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。なお、私立学校の定員につきましては、県教育委員会とは異なる設置者により設けられていることから、申し上げる立場にありませんが、高等学校教育に共通する諸問題につきましては、適切に協議してまいります。	E
4	全般	統廃合しなくても「魅力ある県立高校づくり」は可能である。単純に廃校するための言い訳にしか見えない。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した高校を統合先とすることで、統合される高校の伝統を残していきたいと考えています。	D
5	全般	すでに県教委は2019年に、児玉白楊高校と児玉高校を統合し、現在の児玉白楊高校に新校を設置する、また飯能高校と飯能南高校を統合し、現在の飯能高校に新校を設置するという「第1期実施方策」を公表し、現在、2023年4月からの開校に向けた準備が行われている。この「第1期実施方策」による高校統廃合を巡っては、地元等からの強い反対意見が吹き出したにも関わらず、来年度からの開校に向け準備が進められている。しかし、新校建設に当たっての予算が計画段階での一番少ない予算で見積もられ、新設されるはずだった校舎を、現在ある施設の改修で対応することとされ、しかもその工期が計画段階より延長され、学校行事に影響を及ぼす恐れがあるなど、混乱をきたしている。また、閉じる学校では、急激な生徒数の減少に伴う教職員数の大幅な定員減による学校運営への影響が懸念されている。新校における十分な予算立てによる施設設備の充実を図ること、そして閉じる学校でも生徒たちの最後まで学習権保障を行うべき責務が県教委にあることは当然のこと。新校においても閉じる学校においても生徒たちが生き生きと充実した学校生活を送り、夢や希望を持って巣立っていくことのできる教育条件整備を求める。	教育環境の整備につきましては、今後とも、適切に対応してまいります。統合によって新校を設置する学校はもちろん、校舎を閉じる学校についても充実した教育活動を行えるよう、県教育委員会として、可能な限りの支援を行ってまいります。	D
6	全般	県教委は、かつて1999年度から2013年度までの期間に「21世紀いきいきハイスクール推進計画」で、県立高校の統廃合を強行し、全日制高校19校、夜間定時制高校14校の統廃合を強行した。それによって、子どもたちは遠距離通学を余儀なくされたり、地元の高校がなくなり全日制高校への進学を断念せざるをえなくなったりするなど、子どもたちの就・修学権が脅かされる事態が引き起こされた。特に廃校となった高校は、家庭や学力的に困難を抱える生徒が多く通う学校で、こういった生徒の行き場を失う現象が生じている。また、高校が無くなった地域では、街が疲弊する現象が起きている。そうしたことへの十分な総括もないまま、新たな統廃合計画を出していくことに対して、私たちは強い憤りを禁じ得ない。	これまで、再編整備により、進学を希望する生徒にとって、過剰な遠距離通学を余儀なくされたり、進学を断念するような事態が生じないよう、地域ごとの募集学級数を調整するなど、丁寧に対応させていただいております。また、今後とも適切に対応してまいります。	D
7	全般	県教委は、この間の高校統廃合を「県立学校の活性化・特色化」を図るための「再編整備」と称しているが、実質的には県立高校を廃校にするもので、高校つぶしといえる。2016年2月の県教育委員会定例会では「県有施設の維持管理」に必要な経費は、平成25年度予算ベースで約295億円のところ、今後は年平均で約2倍の586億円が必要となる見通しである。また、県立学校などの教育施設は全体の約5割を占めており、施設の老朽化が深刻化している」との報告がされている。このことは、子どもたちの学びの保障よりも財政面からの政策として、高校統廃合に道筋をつけようとしていたことと表れてはならない。私たちは、この間の高校統廃合に関し、埼玉の子どものための憲法で保障された学習権を侵害するものとして強い憤りをもち、厳しく抗議する。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。これは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
8	全般	県教委は、「再編整備」を進める観点の一つとして、「生徒募集が困難」な学校を掲げているが、そのような困難な状況にある学校こそ条件整備が必要である。このような教育行政の責任を放棄した、子どもたちの学習権を奪うような高校統廃合を許すわけにはいかない。さらに県教委は、埼玉県における今後の公立中学校卒業生数の減少を理由に挙げているが、そのような減少期こそ、少人数学級実現の絶好のチャンスだと考える。学校を統廃合するのではなく、1学級30人以下の「少人数学級」を生徒減少期の今こそ実現し、生徒一人一人が持っている願いや課題に寄り添いながら、きめ細かくて温かい教育の実現を求める。	高等学校においては、少人数学級に関する制度改正は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
9	全般	全ての新校は、どの程度の偏差値レベルの高校設置を、想定しているのか。厳密な議論が必要だが、現時点での内容を記載願う。	県立高等学校においては、偏差値に基づく入学選抜は実施しておりません。そのため、各校の偏差値レベルという考え方に基づく記載はできません。	D
10	全般	和光国際高校と和光高校、岩槻高校と岩槻北陵高校では、学力の差が非常に大きく開いている点が挙げられる。この組み合わせの合併には正直疑問が残る。中期の再編でも、豊岡と入間（1970年代の新設校）の合併があったが、それよりも強い違和感を覚える。和光+新座、岩槻北陵+岩槻商業（→岩槻総合（仮））、秩父農工科学+小鹿野+皆野（→秩父総合（仮））という組み合わせのほうが、両校の校風を融合させた魅力ある組み合わせになったかと思う。特に、秩父農工科学+小鹿野+皆野の組み合わせであれば、総合学科という形をとりつつ、小鹿野・皆野に分校という形で学校を残すことも可能だったと思う。ただ、特に秩父圏外への通学が困難であり連携型中高一貫教育が奏功している小鹿野高校よりも、他地域の有力校への進学も容易な皆野町周辺であれば、競争力という面でも劣っていたのは仕方ないかと思う。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した高校を統合先とすることで、統合される高校の伝統を残していきたいと考えています。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、これまでの教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
11	全般	「男女別学校の共学化」には断固反対する。今回の再編とは大きく話がずれるが、言える段階で言うておかないと手遅れになってしまうと思った。	頂いた御意見は、今後の本県教育行政の参考とさせていただきます。	E
12	全般	こういう学校の再編ということになった際、どうしても「少人数教育で乗り切れまい」「地方に住む人たちはどうなる」という意見も少なからず出るとは思うが、「少人数ならば何でも乗り切れる」とは考えていない。35人学級・30人学級には賛成するが、35人×4＝140人が最低レベル、できれば同6＝210人は欲しいと思っている。	頂いた御意見は、今後の本県教育行政の参考とさせていただきます。	E
13	全般	公共交通機関に乏しい北部であっても、自転車や二輪車を使用できれば、移動範囲は比較的広いものだと考える。市町村ごとの人口だけではなく、圏域（10km圏や20km圏、交通機関が充実している場所であれば30分圏内など）に何校（下宿や寮生活が困難な家庭も少なくないし、最低でも10km圏内に1校、できれば2～3校あれば選択肢が違って良い）という考えで、今後の第3期以降の再編を考えていただければと考えている。	頂いた御意見は、今後の本県教育行政の参考とさせていただきます。	E
14	全般	計画に賛成するが、公教育ゆえに遅すぎると感じた。高校は義務教育ではないのに、実質無料化しただけでなく学業成績に関係なく卒業させている。それは、無為な若者を輩出する要因にもなる。ゆえに本計画は教育改革の一つとして必要である。	再編整備は、県立高校の活性化・特色化を図るために推進すべき重要施策と考えています。学校や地域の状況などを勘案し、県民、生徒、保護者のニーズに応える魅力ある県立高校づくりに努めてまいります。	B
15	全般	エリア内の類似高校を合併して一つにするプランに見えるため、新校方針と手段が倒錯していないだろうか。時代のニーズに合わせてエッジの効いた若者を育成するために、単校であってもリニューアルする計画がほしい。	頂いた御意見は、今後の本県教育行政の参考とさせていただきます。	E
16	全般	授業料無料化により私立進学が増え、公立高への進学が減少した。それは顧客（子供や親）の選択の結果なのだから、もっと校数を減らしても良いのではと思う。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、高校の現状や地域バランスなども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
17	全般	今後「超スマート社会」という認識があるのに、情報通信(IT)系に強い学校が無い。ITの専門校化ではなくとも、SNSへの適応などデジタルリテラシーは社会の必須能力だ。もはや暗記よりも調査力や取捨選択力が求められる時代だ。ゆえにIT教育の必須化の追加を望みたい。	今回の統合においては、大宮工業高校と浦和工業高校を統合し、工業に関する学科と情報に関する学科の併置校とすることを検討しております。ご指摘のとおり情報社会に対応できる教育は重要なことから、情報に関する学科の充実にも努めてまいります。	C
18	全般	公共施設の廃止には地元などから反対が必ずあるが、もはや公立校は地域や受益者が負担して維持できるわけでは無いと言う現実に向き合うべきであり、公益優先の合理的思考で自信を持って進めて欲しい。	再編整備は、県立高校の活性化・特色化を図るために推進すべき重要施策と考えています。学校や地域の状況などを勘案し、県民、生徒、保護者のニーズに応える魅力ある高校づくりに努めてまいります。	B
19	全般	低偏差値校は廃校になりやすい。しかし点取り教育や暗記教育に馴染めない子供へは、具体的スキル、つまり社会で「生き抜く力」となる教育が良いこととなる。その結果が、偏差値に依存せずに『自己肯定感』を上げる学校作りとなることを祈る。	頂いた御意見は、今後の本県教育行政の参考とさせていただきます。	E
20	全般	第2期実施方策（案）に反対である。これからの埼玉の高校教育の発展を考えるならば、第1期の計画もいったん白紙に戻し、教育的効果が明らかな「少人数学級指導」を中心とした学びを保障するための、現在の県立高校全体の教育環境（条件）の整備こそ、取り組むべきである。世界の教育環境の流れは20人学級など少人数学級であり、PISAの調査でも、少人数学級の教育的効果が認められている。だからこそ、埼玉県でも20年以上、定数改善が実施されないもともでも教育的効果を認め、「少人数学級展開」が50校近くで実施されてきた。また、コロナ禍においても「密にならない」ことが理由であったが、埼玉県でも1クラスを20人程度にした「分散登校」を実施し、生徒にとっても、教職員にとっても安全・安心で教育的効果が発揮された事例もある。以上のことから、生徒減少期の今こそ、学校数を減らし、適正規模にするという施策でなく、計画的に高校においても「少人数学級」を進めるべきである。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。これは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。なお、高等学校においては、少人数学級に関する制度改正は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
21	全般	廃校となる学校の多くは、家庭的・学力的に困難を抱える生徒が多く通う学校である。この計画を進めるならば、そのような生徒の行き場を確実に失うことになる。現在、埼玉県の高校進学率は99%（県立高校入学者65%、私立高校入学者26%）を越え、全国平均98%を上回っている状況である。統廃合を進める観点の「生徒募集が困難な学校」という観点で進めること事態が、すべての生徒の学習権保障という観点から間違っている。また、今回の計画の「八潮高校と八潮南高校」のある県南東部、「和光高校と和光国際高校」のある県南部は人口急増地域で、この地域の高校がなくなることは大変な問題である。さらに、逆の意味で「秩父高校と皆野高校」のある秩父地域、「鳩山高校と越生高校」の県西部地域にとって、学校は町の活性化にとっても大切なものである。町や市にとって一校しかない高校がなくなるということは地域にとっては大変な問題であり、町の意見を十分に尊重すべきである。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。これは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。なお、今回の統合においては、案の発表後に、県民コメント制度による意見募集を行うとともに、対象校における学校関係者説明会を開催し、様々なご意見を直接お聞きしました。案の策定後は、地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、地域の方々と共に新校づくりを進めてまいります。	D
22	全般	今回の統廃合・各校の統合計画は、「再編整備する観点」の③から見ても、根拠のないものである。例えば、「越生高校と鳩山高校アーニメーション分野で活躍できる人材を育成する高校」「皆野高校と秩父高校一国際に関する学科で地域の観光資源を海外に発信する高校」は本当に地域や県民のニーズに合った高校になるのだろうか。2校を統合するために、とってつけたような学科再編や特色化になっていて、本当にそれで学校が活性化されるのか、はなはだ疑問である。また、現在の「児玉高校と児玉白楊高校」「飯能高校と飯能南高校」の新校に向けての取組でも、教育予算が足りず、両校が当初から求めていた施設・設備などが進まない状況になっている。そのことを考えれば、今回の「実施方策(案)」は始めから統廃合数(12校→6校)ありきであり、認めるわけにはいかない。	7頁の「再編整備を検討する観点」の②においては、「地域・県民の期待や社会のニーズに対応した特色ある学校を設置する必要がある。」と記載しているところですが、そのため、今回の統合にあたっては、それぞれの学校が特色のあるものとなるよう意を用いています。なお、新校の設置に係る施設設備の予算につきましては、県が適切に整理しております。教育環境の整備につきましては、今後とも、適切に対応してまいります。	D
23	全般	再編整備の進め方の中に、生徒やそこで学んだ卒業生の意見を聞く場がない中で進められたことは問題である。「子どもの権利条約」や「人権規約」や、国際的な教育施策の流れの中でも、児童・生徒など当事者の意見を聞く場を持つ中で、さまざまな教育施策や制度を作っていくことが求められている。また、今回の再編整備計画の活性化・特色化の目玉である「SDGs」を進めるのであれば、その目的である「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために、当事者の意見を聞かない「実施方策(案)」は見直すべきである。	今回の統合においては、案の発表後に、県民コメント制度による意見募集を行うとともに、対象校における学校関係者説明会を開催し、様々なご意見を直接お聞きしました。案の策定後は、地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、地域の方々と共に新校づくりを進めてまいります。	C
24	全般	数の論理(現在1クラス40名)で減るから減らすではなく、減るから中身を濃くする教育を目指して欲しいもの、その為の再編と云われると思うが中身の濃い教育を目指せば考えられる事は、好い所・得意分野を伸ばす、『魅力ある高校づくり』から産まれる少数精鋭ではないか。(その為にもクラス編成人数の再構築が必要と考える。)統合すれば数の上では現在と同等となるが、新入材の育成どころか基本的には再編前と何ら変わらない高校になってしまう事を危惧致す。我が国の高校生は国の宝物。県国を問わず県費、国費をかけてその宝物を育てる事こそ国及び県を富ませる方策であると考えます。そんな大切な人材を入学させた中小企業は世の中に通用する社会人に向けて育てている。中小企業にとり高校新卒の人材は企業存続の為必要不可欠な存在。地域社会において様々な交わりを地元高校と持っている。その一例として、企業見学会の受け入れ、ビジネスマナーテキストの配布、高校へ向うのビジネス講演会実施、学校評議委員会へ参画、県にも協力頂いているロボット工場の運営、活動等々、お互いの信頼関係を作りながら生徒にとってベストマッチを作り出す関係を作る事により地産地消を産み地域の活性化に繋がるものと確信している。現在の高校再編計画は、そんな企業と高校の地域での活動を根底から覆す事になりかねないと思っている。数の論理ではない魅力ある高校教育再編成を心より望む。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な高校を対象とするともに、同じ地域に根差した高校同士を対象とすることで、両校の伝統を残していきたいと考えています。なお、統合による新校の設置にあたっては、企業をはじめ、地域や社会の御理解・御協力を頂きながら、ニーズに応えるべく、これまでの教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校づくりを進めてまいります。いただいた御意見については、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
25	全般	再編成の再考を求める。生徒数が減少しているという理由もあつての再編成とこのことが、反して、特別支援学校の生徒数は増えている。療育手帳がとれない(知的発達にさほど遅れがない)のに、主治医に頼み込んで診断書を書いてもらい、特別支援学校を受検する生徒もいる。通級指導をしている鳩山高校はじめ、今回、再編成の対象となった高校は、そうした学びにくさをもった生徒たちの居場所になっている学校もあるのではないかと。学校を減らすのではなく、ひと学級の人数を減らし、学びにくさを抱えている生徒たちも安心して学べる環境を目指すことこそが、私たちが目指す共生社会に近づくのではないかと。	特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性に応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	C
26	全般	少子高齢化の影響で、高校の統廃合は仕方ない部分は理解できる。私立高校の学費負担軽減もあり、県立の志願者数も少なくなってきた。ただ、生徒数が少なくなってきたから統廃合にするのではなく、生徒数が少なくなった学校だからこそできる指導、支援はないのか。高校における通級指導を充実させたり、グリーゼーションの生徒への支援を手厚くしたり、卒業後の支援を手厚くしたり…。昨今、効率化にばかり比重を置きすぎて、主役である生徒が置き去りにされているように感じる。これでは、生徒が、子どもが日本に対して希望ある未来は描けない。大人が知恵を絞って、画期的な提案をする、実行する背中を見せてあげるべき。その背中を見せてあげられる最前線に立っているのは教育局の先生方。これまでの経験や知識、良心のもと埼玉の明るい未来に向けて選択していただきたい。	県立高校の再編については、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性に応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	C
27	全般	「第2期実施方策(案)」に反対する。生徒数の減少こそ、少人数学級実現の絶好のチャンス。学校を統廃合するのではなく、1学級30人以下の「少人数学級」を実現し、生徒一人一人に行き届いた教育の実現を求める。新型コロナウイルス対策として分散登校が行われたが、コロナ禍の今だからこそ、1クラス30人以下の少人数学級を進める時期である。	高等学校においては、少人数学級に関する制度改正は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
28	全般	再編整備というが、実質的には高校を廃校にするもの。そのような経済効率優先の教育行政には反対。経済的理由で子どもたちの学習権を奪わないでほしい。	県立高校の再編については、公立中学校卒業予定者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 これは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
29	全般	県立高校の「活性化・特色化」を謳い文句に、県立学校の再編整備を生徒数の減少期にあわせて進めていこうとすることには反対。特に、今回の（案）では、例えば「アニメーション・美術分野で活躍できる人材を育成する高校の設置」など、本当に「地域・県民の期待や社会のニーズに対応した」ものであるのか疑問。一方の学校を廃校にするための口実としか考えられない。	7頁の「再編整備を検討する観点」の②においては、「地域・県民の期待や社会のニーズに対応した特色ある学校を設置する必要がある。」と記載しているところです。そのため、今回の統合にあたっては、それぞれの学校が特色のあるものとなるよう意を用いています。	D
30	全般	地元から通えなくなる生徒が出ないか心配。憲法・教育基本法に規定された子どもたちの学習権保障と教育の機会均等の原則に反する高校統廃合に強く反対する。	再編整備を検討する際には、地域バランス等を考慮して検討しております。 また、再編整備により、進学を希望する生徒にとって、過剰な遠距離通学を余儀なくされたり、進学を断念するような事態が生じないように、地域ごとの募集学級数を調整するなど、丁寧に対応させていただきます。	D
31	全般	学校が無くなると街は疲弊する。すでに廃校となった周辺の街の状態をみれば明らか。そのような街の活性化を奪う高校統廃合には反対。	県立高校の再編整備は、県内中学校卒業生数の減少や社会のニーズなどを踏まえ、県立高校の活性化・特色化を図るために推進すべき重要施策と考えています。新校が地域とともに活性化・特色化を図り、共に発展できるように、市や地域の方々と学校関係者などと引き続き検討を進めてまいります。	D
32	全般	生徒減少期のいま、高校「つぶし」ではなく、教職員の「多忙化」を解消し、子どもたちの成長発達を保障するために学級定員を減らすことこそ、県教委がなすべきことである。	学校における「働き方改革」は重要なことと認識しております。そのため、学校における働き方改革基本方針に基づく取組を適切に推進するとともに、教育条件の整備についても、国へ働きかけるなど努めてまいります。	D
33	全般	廃校となる学校の多くは、家庭的・学力的に困難を抱える生徒が多く通う高校。そのような生徒の行き場を失うことになる。いわば困難を抱える「弱者」に冷たい行政といえる。そのような教育行政であってはならない。	生徒たちの進学先を確保するよう、県内各地域における公立中学校卒業生数の今後の推移や地元の高校への進学希望者数等を踏まえながら、地域ごとに募集学級数を調整するなど、丁寧に対応してまいります。	C
34	全般	実施方策案の情報量が、パブリックコメントを考える上で少ない。例えば、統合前の学校の1学年の生徒数に対して新校では1学年何人募集にする予定なのか方策案に書いておいてほしい。県内全体で中学卒業生数が6000人減少することは述べられているが、統合予定校の通学可能圏内の生徒数がどの程度減少する見込みで、統合することによって受け入れ生徒数をどのくらい減らすつもりなのかを載せてほしい。 また、新校が募集生徒数を増やすつもりならば、そのための施設・設備や教職員等の条件整備をどうするつもりなのかを示してほしい。	実施方策案につきましては、参考資料として添付している平成30年4月に策定した「魅力ある県立高校づくり実施方策案」に向けて（再編整備の進め方）に基づき検討してきました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率、学校・地域の取組など、様々な情報を総合的に考慮のうえ、近隣の学校との統合案を公表したものです。 なお、統合後の募集人員や施設整備などについては、新校における教育内容などを踏まえて、適切に対応してまいります。	C
35	全般	どの学校も、特色ある学校を作ろうという意志は感じられる。そのためのリソースや方策が分からないことが心配である。語学力の育成のためにはALT等の採用を増やしたり、グローバルラーニングセンターを設置したりすることが必要になるかもしれない。留学の費用をまかなう必要もあるかもしれない。方針だけでなく、それを実現するための人的・物的資源の確保をしっかりとしてほしい。	新校の設置は、令和8年度の予定であることから、新校が魅力ある高校となるよう、今後、新校における教育内容などを踏まえて、必要な予算の確保に努めてまいります。	C
36	全般	生徒数が減少しているなかで1学年6～8学級という適正な学校規模が維持できないことが統廃合の背景にあるという。例えば120人しか生徒が集まらない学校を1クラス20人×6学級とすることで対応するなどの方策はできないのか。	高等学校においては、少人数学級に関する制度改正は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。	D
37	全般	生徒数減の中で県財政の面から考えれば、学校の統廃合自体は納得できる。「予算削減のための県立学校統廃合」と言った方が良いのではないかと。「こんなことでは魅力ある学校とは言えない」などの意見が出てくるのも、「魅力ある県立学校づくり」という看板のせいなのであって、はじめから「県財政のための統廃合だ」と言われれば納得するのではないかと。	再編整備は、県立高校の活性化・特色化を図るために推進すべき重要施策と考えています。 ただし、再編整備の趣旨は、公立中学校卒業予定者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してきたものです。	B
38	全般	統廃合による学校減が、教職員の採用減になることを心配している。教職員の採用は計画的に行なってほしい。	生徒数、退職者数、再任用者数の動向等を見極めながら、長期的な展望に立ち、教職員の採用について最大限努力してまいります。	C

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
39	全般	<p>1期の実施計画の進捗や反省点等も詳細に公開してほしい。</p> <p>・1期のパブリックコメントでは「新校のための準備で、現場の教職員にとっては多忙化に拍車がかかる」という意見があり、それに対して「今後、「新校基本計画検討委員会」や「新校準備委員会」等を立ち上げ、地元関係者や学校関係者の意見も伺いながら、新校開校へ向けた準備を進めてまいります。」と回答している。委員会の議事録等については公開されているが、この委員会のおかげで「現場の教職員の多忙化が解消されたのか」は分からない。実際のところ、新校の準備のために現場の教職員が多忙化せずに済んだのかどうか、データを公開してほしい。また、その反省が第2期に生かされているのかどうか説明してほしい。</p> <p>・新校準備委員会はすでに終了しているが、1期の新校が実際に開校するのは2023年であり、その卒業生が誕生するのは2026年3月である。魅力ある高校づくり課として、最低でもそこまでは学校と連携をとって情報交換をし、進捗状況や、うまくいったこと・うまくいかなかったことを記録・蓄積・公開してほしい。いわゆるPDCAサイクルのP（計画・方策）だけ示して、あとは現場任せでは、第2期以降の方策策定に生かされない。</p> <p>・1期のパブリックコメントでA判定（意見を反映し案を修正したもの）は2件のみであった。あえてこの2件だけ意見を反映したことは正解だったのかどうか振り返って説明してほしい。</p>	<p>第1期の実施方針における、新校基本計画検討委員会及び新校準備委員会での議論・検討の状況については、HPで公表しているところである。</p> <p>なお、第1期において新校開設準備における教職員の多忙化が軽減されたかについてお示しすることは困難ですが、学校における働き方基本方針に基づく取組を適切に推進するとともに、引き続き、教育条件の改善に向けて、努めてまいります。</p>	E
40	全般	<p>現生徒を見ながら新校の準備をするのは教職員にとって大きな負担になると思う。新校準備のための専門スタッフを県が派遣したり、生徒募集は令和6年度までにして、令和7年度は新校準備に集中するなど、負担軽減策を考えてあげた方がよいのではないか。それが無理なら、「新校を作る」のではなく、「片方の学校を廃校にする」だけで留めておいた方がよいのではないか。</p>	<p>新校を設置するにあたっては、県教育委員会の事務局職員が、新校基本計画検討委員会や新校準備委員会の事務局を担う等、学校に過度な負担がかからないよう、必要な配慮に努めます。</p>	C
41	全般	<p>「国際感覚を身につけたグローバル人材を育成する」ことが大切であるというのはいかに理解できる。一方で、グローバル人材として育った生徒は、将来世界に飛び出していくので、おそらく埼玉県に住むことはないと思う。県の少子化はますます進むのではないかと。</p>	<p>特色ある新校の設置により、在籍する生徒のみならず、県民にとって魅力のある県立高校づくりに努めてまいります。</p>	C
42	全般	<p>新校ではそれぞれ特色を示しているが、特色のない普通の学校に行きたい生徒が進学すべき学校も提示してほしい。</p> <p>例：「越生・鳩山地域に住んでいるアニメに興味のない中学生」が進学すべき高校はどこか？</p>	<p>例えば、越生高校と鳩山高校の統合においては、アニメーション・美術に関する学科及び普通科の併置校とすることを検討しています。普通科においても魅力的な教育内容とするよう、案の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。</p>	C
43	全般	<p>憲法・教育基本法に規定された子どもたちの学習権保障のため、12校を6校に統廃合することに反対する。</p> <p>まず、地理的な学習権保障について。県の西部と北部は特に学校数が多くない。現在の鳩山高校から近い学校は、直線距離でも越生高校5km、坂戸高校5km、滑川総合6km、松山女子6km、坂戸西6km。皆野高校からは、秩父農工科学高校6km、秩父高校9km、小鹿野高校10km、寄居城北高校12km。特に秩父地域は山や谷があり、直線的には全く通えない。鳩山町・皆野町とその近隣地域の生徒は、統廃合によって通学時間が大幅に増える。また、交通費も家計に大きな負担となる。</p>	<p>再編整備を検討する際には、地域バランス等を考慮して検討しております。</p> <p>また、再編整備により、進学を希望する生徒にとって、過剰な遠距離通学を余儀なくされたり、進学を断念するような事態が生じないよう、地域ごとの募集学級数を調整するなど、丁寧に対応させていただきます。</p>	D
44	全般	<p>個を大切に学習権保障について。統廃合される学校は、それぞれの地域の、さまざまな困難をかかえる生徒を親身に指導してきた。たとえば岩槻北陵高校は、さまざまな困難をかかえた生徒を受け入れ、親身に指導し、「学び直しから、進路実現をめざす」、個を大切に学習権保障をしている。こういう高校を統廃合することは、高校入学自体をあきらめたり、他校に入学して不意ながら中退したりすることにつながる。</p>	<p>今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した高校を統合先とすることで、統合される高校の伝統を残していきたいと考えています。</p> <p>なお、生徒の抱える様々な課題に対する支援は重要なことと考えており、県教育委員会として引き続き対応に努めてまいります。</p>	D
45	全般	<p>子どもたちの学習権保障のため、統廃合には反対。生徒の減少期こそ、少人数学級実現のチャンス。生徒一人ひとりに行き届いた教育をするためにも、「魅力ある県立高校づくり第2期実施方針（案）」は、撤回あるいは大幅な見直しを検討してほしい。</p>	<p>県立高校の再編については、公立中学校卒業予定者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。</p> <p>その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。</p> <p>これは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。</p> <p>なお、高等学校においては、少人数学級に関する制度改正は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。</p>	D
46	全般	<p>少子化が進み、高校受験生の数も減っていることは理解するが、だから学校を減らせば良いというのは、あまりに安易な方策ではないかと。維持、運営にお金がかかるのはわかるが、教育はとても大切なこと。これを機にクラスの人数を減らすなどの方策を取る方がよい。また、なくなる学校の多くは学力的にも経済的にも厳しい生徒が多くいる学校。これらの生徒たちの行き場もなくなってしまう。統廃合ではなく、1クラスの人数を減らすなどの方策をお願いしたい。</p>	<p>高等学校においては、少人数学級に関する制度改正は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。</p>	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
47	全般	定員割れの高校は廃校にして、近くの高校の定員を増やす事を提案する。 松山高校、松山女子高校を統合して、10クラスくらいにして、2～4クラスを中高一貫校にする事を提案する。 上位高校の能力別クラスの設立、中堅高校の進路別クラスの設立、下位高校の基礎学力向上を図る。	県立高校の再編については、公立中学校卒業業者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 これは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。 頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
48	全般	自分の母校がなくなることは、とても悲しいこと。 統廃合に反対。 より多くの子どもたちを受け入れてほしい。 1学級の生徒数を30人以下にしてほしい。生徒数が減れば、先生の目が届き、学校が楽しくなる。 是非、1・2校の高校を残してほしい。	県立高校の再編については、公立中学校卒業業者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 これは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
49	全般	12校の高校を6校に統合することに反対。 「魅力ある県立高校づくり実施方策策定に向けて（再編整備の進め方）」には統廃合を行った理由が記されているが、その結果の総括は何も記されていない。 「いきいきハイスクール構想」による高校統廃合には様々な弊害があった。地元高校がなくなり、多くの子どもたちが遠距離通学を余儀なくされた。また、廃校となった高校は、家庭や学力的に困難を抱える生徒が多く通う学校で、こういった生徒の行き場を失うことになった。そして、その子どもたちの一部が特別支援学校に進路を求めたことで、特別支援学校の高等部が肥大化し、「教室不足」が深刻化した。 今回も6校が廃校となれば、同様のことが起こることが考えられる。2013年以降も特別支援学校の「教室不足」はより深刻化している。現在は横ばいで推移している高等部の在籍者数も再び急増に転じ、特別支援学校の学校・教室不足に拍車がかかることは明白。 また、小中学校には特別支援学級があり、各市町村が設置を推進していることもあって、その在籍者数は急激に増加を続けているが、高校には現時点では特別支援学級はない。高校へ進路を求める特別支援学級卒業生の「行き場」を奪うことにもなる。 「魅力ある県立高校づくり」を謳うのであれば、学校を統廃合するのではなく、障害を含む特別な教育的ニーズを有する子どもたちに青年期の豊かな教育が保障できるような体制・制度の整備こそ必要だと考える。2018年度から制度化された高校における「通級指導」は、いまだに「試行」の段階で一向に実施校が増えていない。小規模校をはじめとしたニーズのある学校への「通級指導教室」の設置を、まずは進めていただきたい。	県立高校の再編については、公立中学校卒業業者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 これは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。 なお、特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性に応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	D
50	全般	以下の理由から第2期実施方策（案）に反対。 様々な発達上の困難、特別なニーズがある生徒等へのきめ細かい学習指導と生活指導を進めていく上で小規模な学校の果たすべき役割は極めて重要。これまで統廃合の対象になってきた学校や今回対象になる学校では、実践的にそのことを証明している学校が数多く存在している。こうした実践をより豊かに進めていくために、県教委は「再編整備」ではなく、教職員の増員、施設・設備等の改善こそ行うべき。 これまで統廃合が行われるたびに、一定数の特別なニーズがある生徒が「行き場」を失い、特別支援学校に入学している。結果として特別支援学校の過密化を押し進めた。そもそも「特別支援教育」の理念のひとつは、通常の学校でも特別なニーズに対応した教育を行うことだった。その意味でも今回対象となる学校は全て残すべきで、1で述べた条件整備を行うことが重要。	県立高校の再編については、公立中学校卒業業者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。 なお、特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性に応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	D
51	全般	「国際感覚」「アニメーション」「先端教育」等が、本当の意味での「ニーズ」なのか。すべての生徒に、普遍的で通常の教育をしっかりと保障していく体制を保障することこそ必要。生徒数が減少していくということが理由であるのであれば、生徒急減期の今こそ少人数学級を進めるべき。	7ページの「再編整備を検討する観点」の②においては、「地域・県民の期待や社会のニーズに対応した特色ある学校を設置する必要がある。」と記載しているところです。そのため、今回の統合にあたっては、それぞれの学校が特色のあるものとなるよう意を用いています。	D
52	全般	今回対象になる学校のうち、皆野高校、鳩山高校、八潮南高校ですすでに行われているが、高校段階での通級指導教室を充実させていくべき。現状では県教委の対応は極めて不十分と言わざるを得ない。再編整備を進める中で対象の3校での通級指導教室の成果はどのように継承・発展させるのか。今必要なことは、通級指導教室の充実をはじめ、高校段階での特別なニーズのある生徒への学習権保障を積極的に進めること。	特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性に応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	C
53	全般	取って付けたような「魅力」を掲げて「統合」と言いながら、生徒募集が困難で偏差値が低い学校を体よく切り捨てているようにしか見えない。これでは成績の低い子は行く所が無くなってしまふ。 公立高校が果たすべき役割を投げ捨てるようなことはしないで、生徒募集が困難で規模が小さな学校には特別に教員を増員して手厚い教育を展開すれば、有為な若者を育てることができるのではないか。 以上の意味から今回の計画には反対である。	県立高校の再編については、公立中学校卒業業者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
54	全般	今回の「案」は、「魅力ある県立高校づくり」が「県立高校の統廃合」になっており、反対である。新校の基本方針には「国際感覚や語学力を身に付け、国内外で活躍できるグローバル人材の育成」「クリエイティブな分野で活躍できる人材の育成」「ビジネス分野で活躍できる人材の育成」「先端産業分野で活躍できる人材の育成」が掲げられている。この計画は、いわゆる「成績のよい生徒」「将来の目的をはっきりと持っている生徒」の学びのことだけが考えられており、様々な困難を抱えた子どもたちや将来の進路を悩んでいる子どもたちのことが考慮されていない。各校の特色を設けることが必要ならば、統廃合抜きで行うべき。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。なお、生徒の抱える様々な課題に対する支援は重要なことと考えており、県教育委員会として引き続き対応に努めてまいります。	D
55	全般	この統廃合が実施されれば、行き場を失う子どもたちが増えることは間違いない。とりわけ、学力の低い生徒、発達障害など配慮が必要な生徒、貧困など家庭の困難を抱えた生徒が取り残されてしまう。県の責任は「全ての子どもたちの学びを保障できる制度の確立」。このような、一部の「力のある子」だけを伸ばそうとするような「計画」で、様々な困難を抱える子どもたちの行き場を奪うのは県の施策として正しくない。今、特別支援学校在籍児童生徒の増加による特別支援学校の学校不足・教室不足は極めて深刻で、その実態は子どもたちの学ぶ権利を奪っている。前回の大規模な高校統廃合で、それまで高校（主に困難校や定時制高校）で受け止められていた子どもたちが行き場を失い、やむを得ず特別支援学校高等部に進学したことが、生徒数の急増に拍車をかけた。この学校統廃合を実施すれば、さらに特別支援学校に進学せざるを得ない子どもたちが増えるのは間違いない。特別支援学校の状況はますます深刻になる。高校に進学したいのに特別支援学校に来ざるを得なくなった子どもたちにとっても不幸。軽度の障害を持つ子どもたちや発達障害の子どもたちの進路を狭める「計画」には反対。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。なお、特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性に応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	D
56	全般	高校を選択するのは15歳の中学生。「自分は国際社会で活躍したい」「クリエイターになりたい」「先端産業を担いたい」などという自分の将来のイメージをはっきり描ける中学生は少数。多くは「自分は何に向いているのか」と模索しながら高校・大学で学び、将来の道を選んでいるのではないかと。そういう状況を考慮すれば、各分野を総合的に学べる「特に特色のない学校」も絶対に必要。今回の「計画」は、各高校に特色を持たせようとするのが、時間をかけて考え学びながら将来の道を決めていく場を少なくすることにつながっている。そういう面でも、この「計画」は見直すべき。	今回の統合においては、特色のある学科のみならず、普通科を併置する学校も多数あり、どのような学科を選択しても、学校生活をとおして、自分の将来の道を模索する場となるものだと考えています。	D
57	全般	定員割れの高校の統廃合、レベルが高く、応募者が膨大な高校は、定員、クラスの増加、私立高校を見習って、特別進学クラス、スポーツクラスを作る。中高一貫校を伊奈学園総合高校以外にも作ってほしい。職業高校の資格取得に、力を入れてほしい。	頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
58	全般	自分で考えるとか物事の本質を見抜くような人を育ててほしい。カリキュラムもただこなすとか記憶するだけのことでなく創造する力を高める内容であってほしい。学びたいことを生徒が選べるものであってほしい。校則も意味のないものはやめて生徒と話し合いの上で決めてほしい。今の社会で何が起きているのか。歴史とともに話し合って欲しい。	頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
59	全般	少子高齢化が進む中、教育行政も大きな変革が必要だと思う。こどもの数が増えるにつれ、増え続けてきた学校も、少子化と呼ばれて久しい現代においては、統廃合を進めるのが必然の流れだと思う。ただし、学校の統廃合は、こどもの能力の弱体化や地域の過疎化を助長する危険を孕んでいるように思う。「魅力ある県立高校づくり」が、こどもや地域のための政策であることを見失わずに、政策形成にあたっては特段の配慮を願う。	再編整備は、県立高校の活性化・特色化を図るために推進すべき重要施策と考えています。学校や地域の状況などを勘案し、県民、生徒、保護者のニーズに応える魅力ある高校づくりに努めてまいります。	B
60	全般	新たな高校でタブレット等を導入することがあれば金額等を予め提示するよう求める。	学校生活において、必要となる教材等につきましては、新校の開校準備のなかで検討させていただきます。	C
61	全般	高校の見直しをするなら、ロッカー等を広く取ってほしい。	ロッカー等の備品につきましては、新校の開校準備のなかで検討させていただきます。	C
62	全般	かつて県が行った高校統廃合は、子どもたちの通学や進学に大きい影響を与えた。また、先生方の多忙は目を覆うものがある。生徒減少への対応を統廃合に安直に流されるのは如何なものか。生徒の学ぶ環境、先生方の働く環境の改善の方をまず考えるべきではないか。県の政策の押し付けではなく、当事者である生徒、先生、地元の意見の反映を十分図り、合意づくりを進めることを望む。	学校における「働き方改革」は重要なことと認識しております。そのため、学校における働き方改革基本方針に基づく取組を適切に推進してまいります。なお、新校の指導方針につきましては、実施方針の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。	C
63	全般	基本的に魅力ある県立高校づくり実施施策案と統合案に賛成だが、新校の基本方針を見るとそれぞれの高校に魅力を感じる。しかし、埼玉県は広く、新入生が進路を選ぶのに魅力ある高校への通学路が遠く離れていれば通学が困難になるので配置に配慮が必要。魅力ある高校を1校のみとせず、それぞれを県内の通学内にその魅力ある学科を配置して、新入生が通学できる学区内に配置して、選択しやすいうようにして上げていただきたい。越生高校にはクリエイティブな美術専門科目、八潮高校にはビジネス分野、大宮工業には専門技術分野があるが、これは新入生にとっては魅力がある。しかし、この新校に通えないようでは良くない。これが自分の学区にあり、誰もが通えるようにする。そこで提言ですが和光国際高校、岩槻高校、秩父高校は同じような基本方針だがその3校にも上記の分野の科目を入れて、新入生が選択しやすいう新校にして、さらに魅力ある新校にしていきたい。	今回の統合にあたっては、それぞれの学校が特色のあるものとなるよう意を用いています。そうした特色について、他校でも活用できるよう期待を込めた御意見を頂きましたが、教員数や施設・設備、財源などの制約があるため、実現することは困難であると考えております。頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
64	全般	また、SDGs 誰一人取り残さない、社会づくりの為、これからの高齢化社会と福祉国家を目指す為の人材育成の為、この分野を拡充する必要がある。その為に福祉分野で活躍できる人を育成する分野が必要ではないか。その福祉分野も基本方針に入れて載きたい。	今回の第2期実施方針では御意見については反映することはできませんでしたが、頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
65	全般	「提案内容」・・・「部活動」に「合気道」を加えること。 学校部活動に推奨する理由 ①男女一緒に日本の文化である武士道精神のもと「現代武道（合気道）」を学ぶ。 ②外国人でも受身ができれば受け入れられ、キツイ、イタイがないので、国際交流に役立つ。 ③豊かな心の育成・・・怒の心、和の心、礼法作法、忍、を学ぶ。 ④健やかな体の育成・・・回転受身は、転倒によるケガを防止する。 ⑤多様な人々と、連携、協働してゆくための基盤となる。 ⑥スポーツ庁推奨の「ゆる部活」、「体力向上部」に相当する。	新校の指導方針につきましては、実施方針の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。御意見については、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
66	全般	今回の統合について、埼玉以外の多くの県で進めている男女別学の高校の共学化が全く進んでいないことに大いに疑問を感じる。男女別学のメリットも、もちろんあるが近年の多様性やジェンダーフリー化が進む社会の流れを考慮すると、現在の埼玉の状況は時代遅れと言っても過言ではない。全ての別学の学校をすぐに共学化しろとは言わないが、特に人口が少なく通える学校の選択肢が少ない地域については統合あるいはそれぞれ共学の学校の開設を検討していくべきではないか。この地域は、普通～やや勉強が得意な生徒にとって普通科高校の選択肢が非常に少ない状況が続いている。このままだとますます公立から私立に流れてしまうのではないかと考える。	頂いた御意見は、今後の本県教育行政の参考とさせていただきます。	E
67	全般	魅力ある県立高校づくり第2期実施方針（案）に反対。 まず、統合に当たって両校の意志意向の確認が必要。なぜなら、新しい学校の方向性が各学校に認められるものになっていないから。 地理的に離れて、歴史もある各学校を統合する理由がわからない。また、大変狭い範囲の教育目的を掲げたところで、また、時代が変われば、すぐにも見捨てられそうなものが目立つ。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
68	全般	この案については反対。 ①県立高校の統廃合によって、子どもたちは地元の高校がなくなり遠距離通学を余儀なくされ、子どもたちの肉体的負担と保護者の経済的負担が大きくなる。 ②地元の高校がなくなることで、街が疲弊していく。 ③生徒減少期の今だからこそ、少人数学級にすることによって、一人ひとりの子どもたちに対して行き届いた教育が実現できる。 県民のための魅力ある埼玉県づくり、そして将来の埼玉県を支える子どもたちを育成するために、賢明なる判断を期待する。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
69	全般	倍率が低いという理由で工業、農業、商業高校を縮小することは、こうした学校が果たしてきた人材の裾野を拡げるという役目を軽視してはいまいか。今後、社会が必要とする人材が圧倒的に足りなくなることが起こると懸念する。 生徒減のこの時期こそ、学校を統合するのではなく、定員減を図るべきである。定員が少なくなれば教育の質は上がる。将来的には社会にとってプラスになるはずだ。教育は生きる力を育み、社会を安定させるからだ。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
70	全般	第2期実施方針(案)に反対の理由を述べ、以下の点での再検討を求める。 「再編」という名目の6校の廃校計画により、生徒の進路に多大な影響を及ぼす。就学先として進学を見込んでいた生徒らにとっては、進路先を失い、通学時間、通学距離の負担も大きい他校に行くか、私学に行くかという選択を余儀なくされる。生徒減への対応を、合理化を推進する「廃校」という短絡的政策にせず、20人学級を実現し、そのことを全国にアピールして、埼玉県政の魅力と信頼を高め、埼玉へ移住する人口を増やすこと、安心して子育てできる県にすることなどで新たな県づくりを志向すべき。生徒の進路を狭め、生徒や保護者を混乱させる施策をすべきではない。	高等学校においては、少人数学級に関する制度改正は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。	D
71	全般	廃校とされる地域の産業、商業、自治、教育などを著しく衰退させる。 単なる高校に関わる経費の試算だけではなく、県全体の経済、環境、治安、公共の観点でもっと総合的に多角的に専門家を交えて、教育予算のかけ方を検討すべき。今回の統廃合計画は、目先の教育予算削減の試算だけで計画化されているが、トータルでは県民の損失は大き過ぎる。埼玉県の財政力指数は全国5位。にも関わらず、児童、生徒1人あたりにかける教育予算額はとも少なく、47都道府県で下位から数えた方が早い。もっと子どもたちの教育へ予算をとるべき。豊かな教育はすべての人の社会参加と自治能力を高め、それは地域や都市の活性化や健全化に必ずつながる。学校教育の中で大事にされた経験は、一人一人の人生全般に良い影響を与える。それくらい教育の重要性を大局的にとらえて、施策の検討を進めてほしい。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
72	全般	<p>高校の統廃合が進行するとともに、特別支援学校に入学する生徒が増える。それは2000年代に入って以降、立証されている。高校を学びの場に行ける生徒は高校に進学することを保障すべき。</p> <p>廃校にする経費、高校に行けず特別支援学校に修学する生徒の過密分を解消するための特別支援学校を建設する経費、どれだけ本来的な望ましい教育予算とは言いえない支出を生じさせていることか。</p> <p>通級指導の推進モデル事業の該当校を廃校にするのは無責任過ぎる。説明がつかない。廃校にするのではなく、高校における通級指導を充実、発展させることが県教委の責任。さらに、学校教育法81条で高校においても行うものとされている特別支援学級を、全国に先駆けて設置し、特別なニーズをもつ生徒の教育を十分に保障する教育を進めることを求める。そのことは、義務教育段階の特別支援教育までも大きく前進させる成果を、目に見える速さで生み出す。</p> <p>まず、そのために教育行政の縦割りを克服し、高校教育指導課と特別支援教育課の共同した高校教育の検討を求める。</p> <p>まもなく、障害者権利条約に関わる国連の日本政府への勧告が出る。真のインクルーシブ教育を1校1校のすべての学校に実現すべき。それは埼玉の教育振興基本計画の柱の1つ。</p> <p>そのために高校の少人数学級は大前提になる。特別支援教育の充実の観点からも高校の統廃合計画には強く反対する。</p>	<p>県立高校の再編については、公立中学校卒業業者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。</p> <p>その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。</p> <p>このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。</p> <p>なお、特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性に応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。</p>	D
73	全般	<p>案にある特色ある学科の制定案は、魅力を感じない。もっと生徒自身の主体性、自発性に基づいた教育が実現できる教育課程をもった学校を志向すべき。</p>	<p>新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係者の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。</p> <p>新校の教育活動が魅力あるものとなるよう、頂いた御意見につきましては、検討の際に参考とさせていただきます。</p>	C
74	全般	<p>教員不足問題が深刻。改善するには、教職員の負担軽減が緊急の課題。教育現場をこれ以上、疲弊させる教育条件の引き下げを行うべきではない。</p> <p>少子化だから、子どもが減るから予算も減らす、ではなく、教職員の過重な負担を即刻改善し、教職を志望する人が増えるよう、病気休職する人が減るよう、教職員の増員は緊急の課題。今すぐ着手を。財政支出は必要なもので、削減するのではなく教育条件を改善するという立場をとってほしい。</p> <p>第2期実施方策(案)の、6校廃校の再編案は撤回し、埼玉県独自の少人数学級編制基準の策定と、高校における特別支援教育の推進のための計画を策定し、全面的に教育予算を拡充することを求める。</p>	<p>学校における「働き方改革」を含めた教育条件の改善は重要なことと認識しております。そのため、学校における働き方改革基本方針に基づく取組を適切に推進するとともに、教育条件の改善に向けて、引き続き、努めてまいります。</p>	D
75	全般	<p>県立高校の再編整備に反対。</p> <p>地域、保護者、教員、生徒など、当事者の意見をしっかりと把握して、存在価値を認めていただきたい。</p>	<p>県立高校の再編については、公立中学校卒業業者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。</p> <p>その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。</p> <p>このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。</p>	D
76	全般	<p>生徒数減少期の今こそ、少人数学級実現の絶好のチャンスと考える。</p> <p>このような時期に、高校を統廃合するのではなく、1学級30人以下の「少人数学級」を実現し、生徒一人一人に行き届いた教育の実現を求める。</p> <p>2020年度、2021年度と分散登校が行われたが、この間の分散登校によって、少人数学級での生徒たち一人一人へのきめ細やかな対応のしやすさは経験している通り。</p> <p>このことは、教職員の負担軽減、多忙化解消にも直結する。</p>	<p>高等学校においては、少人数学級に関する制度改革は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。</p> <p>なお、学校における「働き方改革」を含めた教育条件の改善は重要なことと認識しております。そのため、学校における働き方改革基本方針に基づく取組を適切に推進するとともに、教育条件の改善に向けて、引き続き、努めてまいります。</p>	D
77	全般	<p>県立高校の活性化・特色化による再編整備というが、実質的には高校を廃校にするものであり、そのような経済効率優先の教育行政には反対する。</p> <p>経済的理由で、生徒たちの学習権を奪わないでほしい。</p> <p>地元から通えなくなる生徒が出るのではないかと。</p> <p>また、遠距離通学を余儀なくされ、お金もかかり、生徒の負担になるのではないかと。</p> <p>地元の高校がなくなり、全日制高校への進学を断念せざるを得なくなるなど、憲法、教育基本法に規定された生徒たちの学習権保障と教育の機会均等の原則に反する。</p> <p>廃校となった高校は、家庭や学力に困難を抱える生徒が多く通う学校で、こうした生徒の行き場を失うことになる。</p> <p>小規模でも、特色のある、地域に根差した高校を廃校とすることは乱暴。</p> <p>高校がなくなった地域では、街が疲弊する現象が起きている。</p> <p>高校統廃合は街の活性化を阻止し、周辺に与える影響は大きく、教育の問題のみに留まらない。</p> <p>「児童憲章」には、次のようにある。</p> <p>児童は、よい環境の中で育てられる。</p> <p>すべての児童は、就学のみを確保され、また、十分に整った教育の施設を用意される。</p> <p>このことを踏まえ、就学の機会の保障を願う。</p>	<p>県立高校の再編については、公立中学校卒業業者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。</p> <p>その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。</p> <p>このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。</p> <p>なお、再編整備により、進学を希望する生徒にとって、過剰な遠距離通学を余儀なくされたり、進学を断念するような事態が生じないよう、地域ごとの募集学級数を調整するなど、丁寧に対応させていただきます。</p>	D
78	全般	<p>学校の主人公は子どもたち。大人の都合でなくあくまでも子どもたちの立場にたって考えて欲しい。子どもたちにとっては、たった一度きりの高校生活。</p>	<p>頂いた御意見は今後の新校づくりの参考とさせていただきます。</p>	C

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
79	全般	教育に財政を使わない統廃合に反対する。また「特色ある」という名目で、企業がおこなうべき人材育成を学校教育に持ち込まないでほしい。教育内容の「本校の特色」で統廃合後の教育内容ができる。地域に学校があることで、地域の活性化にもなる。統廃合せず、「少人数教育」という特色を持たせる、特色の「学び直し」を充実させ、どの生徒にもゆきとどいた教育をする、「人材」、ではなく、「人」として成長する学び舎にしてほしい。	今回の統廃合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した高校同士を統合先とすることで、高校の伝統を残していきたいと考えています。新校の指導方針につきましては、実施方針の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。	D
80	全般	今回の実施方針について反対する。統廃合で魅力ある県立高校を新設するという計画は、高校を減らすことに変わりない。1期で2校減らし、2期では6校も減らす計画には到底賛成できない。前回の「いきいきハイスクール構想」で全日制を19校、定時制を14校も統廃合している。それによって、高校がなくなった町や、遠距離通学を余儀なくされた生徒たちがいる。国会の統廃合で、通学費用がかかり高校に通えなくなる生徒が出ないように、十分に配慮することを求める。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。また、再編整備により、進学を希望する生徒にとって、過剰な遠距離通学を余儀なくされたり、進学を断念するような事態が生じないように、地域ごとの募集学級数を調整するなど、丁寧に対応させていただきます。	D
81	全般	今回の計画も、どれだけ地元との話し合いがなされたのか、また、統廃合される高校の教職員や生徒との話し合いはどうか。卒業生の皆さんからの意見も聞いてはどうか。十分な話し合いの時間を取ることを求める。	案の公表後に、学校ごとに学校関係者説明会を開催し、様々な方々からの意見を直接お聴きしました。案の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、地域の方々と共に新校づくりを進めてまいります。	C
82	全般	魅力ある県立高校となるためには、県立高校を統廃合するのではなく、生徒数が減るからこその30人以下学級を実現することが、一番の早道。楽興に人数を減らすことで、生徒一人一人に丁寧に対応して課題や願いに沿った高校教育を実現することこそが魅力ある県立高校となるのではないかと。	高等学校においては、少人数学級に関する制度改革は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。	D
83	全般	高校全入が普通のようになってきている中で、県立高校の果たす役割は極めて大きい。親の収入の格差が子の学力の格差にまでなってしまうということが言われている。「収入の格差」「学力の格差」を包み込むことができるのが県立高校と言える。学校統廃合は、経営感覚に大きく依存する形で判断すべきではない。	頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
84	全般	ジェンダーレスの時代であり男子校・女子校の再編が最優先されるべきと考える。男子校・女子校はそのほとんどがいわゆる「伝統校」だが、「時代の流れに逆行しても伝統校は統合の対象とはせずを守る」という県の姿勢には不信感が募る。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
85	全般	本「県民コメント」の結果や新校準備委員会等の進捗についてはホームページ等で細かく丁寧に県民に開示・提供してほしい。	県民コメントの結果や新校準備委員会等の進捗についてはホームページで公表する予定です。	C
86	全般	統合の話については大人の論理だけで事を進めるのではなく、今回統合の話が上がった高校の生徒やその高校の受験を考えている中学生などにも真摯に丁寧に説明を行ってほしい。	今回の再編については、対象校の生徒をはじめ、保護者や関係者の方々にも説明を行っております。地元の中学生にも生徒募集時などに丁寧に説明してまいります。	C
87	全般	各校の現在の基礎データ（立地、交通事情、生徒数、学級数、教員数、定員充足の状況、近年の募集状況など）を示す必要があると考える。そうでないと、なぜ今回の統合案になったのかその根拠がわからない。令和2年度には、全日制進学者の約4割が私立学校を選択しており、高校無償化の影響であるのか、その割合は増加傾向である。将来的に、県立学校は、より厳しくその存在意義が問われる状況にさらされるものと思われる。については、再編整備の進め方に示された校数ありきではなく、さらに踏み込んだ統廃合の推進、校数の削減を早急に行う必要があると考える。統廃合によって生まれた教育資源を、今後必要な教育の実現に振り向けていくことが求められると考える。例えば、サテライト・オンライン授業を充実させる、学び直しやリカレント教育など中学卒業生以外の需要を取り込む、他都県と連携し、学科の充実をさせるなど、モデルとなるような大胆な県立学校を本実施方針で示しても良いのではないかと。一方で、県立高校の統廃合が進んでも、地域や所得に関わらず、誰もが希望する教育を受けられる機会を作ること、本件と切り離せない重要な柱だと考える。これを守るためには、私立進学者への県としての更なる支援の強化、教育人材確保の強化等、ソフト・ハードの両面からの施策を展開することが必要と考える。県立学校の維持だけでは実現し得ない、多様な教育を保障することを、本実施方針に取り入れて示して欲しい。	頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
88	全般	再編整備という実態とかけ離れた表現を使うべきではない。実態は廃校と廃校になる高校を組み合わせた高校の教育課程の現場の意思を無視した改編である。県民向けに明確に廃校を打ち出して、そのことの是非を問うべきである。	今回の案については、参考資料として添付した再編整備の進め方を基に検討し、公表した高校を統合し新校を設置するものです。 なお、2校を統合し新しく高校を設置するものであり、各校の取組を新校に引き継いでいくため、「統合」と表現しています。どちらか一方だけを残しもう一方を廃止するものではありません。	D
89	全般	今、一番「再編」が必要なのは、別学校の再編である。男女の法的な格差が放置されている日本において特に埼玉での公立の男女別学校の存在は際立っている。共学化が高校再編の喫緊の課題である。現状は憲法にも国際人権規約にも反している。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
90	全般	学校統廃合には反対。この間、多くの高校、定時制高校が廃校になってきた。高校が地域から姿を消すと、その10～20年後、地域から通える高校を求めて、人口が流出する。これはもう明白。人口が流出すれば、当然、小学校や中学校へ通う子どもたちが地域からいなくなる。すると、当然、小中学校の統廃合が進むことになる。埼玉の地図をみると圏央道の外側は、どんどん統廃合が進んでいる。地域から人口が減少すれば、交通網も必要なくなってしまふ。その結果、北海道のように駅が廃止され、スカスカの交通網になってしまう。このように学校統廃合は、マイナスしかなく地域はさらに疲弊し、一部地域に人口がたまり、今度は、そこに災害が起これば、完全に対応できなくなる。このように、学校統廃合は、教育面だけでなく経済面からも百害あって一利なしであることは、私たちはすでに経験している。学校統廃合、何としても中止してほしい。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
91	全般	(2) 県立学校の活性化について 適正な学級規模が1学年8～6クラス(1クラスは40人)。人数が単に少ないことをもって「社会的適応能力が磨かれない」、「魅力がない」、「活性化のために統合が必要」というのは、あくまで原則論に過ぎない。 近年、国や埼玉県でもLGBTQ(性的マイノリティ)の方も含めすべての人に居場所があり、いきいきと活躍できる共生社会づくりを目指すなど、本当に個々の個性を認め合うという社会に変化してきている。 こうした中、事情により大規模校より小規模校で学びたいという希望があるならば、その希望(個性)も居場所、活躍の場として認められてしかるべきである。 県内それぞれの地域区分・ブロックには家庭的、経済的事由により、不本意にも小中学生の頃の勉強もままならないという子ども達が必ずおり、そうした子ども達にとって、大規模な学校で多くの生徒の中で競争させるより、少人数で手厚い指導体制の中で、地域との関わりを持ってゆっくり学んでいくことの方が意義がある場合もある。 こうしたことから、各地域区分の中に必ず一つは「学び直し校」的な存在が必要であり、それは国民に教育を保証するため公立高校がその役割を担うべきと考える。 また、生徒の数が少ないから国の基準により教員が配置できないというも、ただの原則論に過ぎず、何時までもこれを振りかざしているだけでは全国の先進地から後れを取り、県内の生徒にとっても良いことは思えない。 特に過疎地域などの場合には、県も地元地域区分ブロックの市町村にも協力を求めるなどして、協力を求められた市町村も、例えば、教員資格を持つ「地域おこし協力隊」や「職員」を派遣するなどの工夫で、例外として1学年1クラスでもイキイキとした小規模校を磨いていくという、県と地元の連携した「埼玉方式」にチャレンジに取り組んでいくべきと考える。	頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
92	全般	先の「21世紀いきいきハイスクール構想」、さらに今回の「魅力ある県立高校づくり」により、高校が減らされ定員枠が狭められることによって、障害(特に知的障害や重度の障害)のある生徒、あるいは家庭環境の厳しさなど様々な要因により学力が低いとされる生徒たちは、高校への入学がますます困難になり、高校教育を受けられなくなる一方では、特別支援学校の高等部が肥大化し、高校内分校も次々と増設されている。 県は共生社会を目指すと言っているが、地域で共に暮らし働くことが進んでいるのか。現に、企業就職は難しいし、たとえ企業であっても特例会社やソーシャルファームといった障害のある人だけで分けられて働くという状況がある。 障害のない生徒が障害のある生徒と一緒に学ぶことで、一緒に働き暮らすことを学んでいく。同じ敷地内で分校と高校に分けることは障害による差別であるし、特別支援学校本校は別の敷地にあり障害の程度で分けることも差別である。共に暮らし働くことにはつながっていかない。分校がインクルーシブ教育への一歩というのなら、北欧のノーマライゼーションのように、特別支援学校全てを地元の小中高に統合することから始めなければならないのではないか。 再編整備により高校を減らすのではなく、誰でも、地元で(近くで)、小さな学校で、基礎的な丁寧な教育を受けられる、そのような方向で実施方針の見直しをしてほしい。	特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性の応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	C
93	全般	和光国際高校と和光高校の統合 岩槻高校と岩槻北陵高校の統合 八潮南高校と八潮高校の統合 大宮工業高校と浦和工業高校の統合 「社会のニーズに対応した特色ある高校」という聞こえはいいが、県南部で市内の2校を統合することで、一方の高校が廃校になり、定員枠が大きく狭められることになる。「新校の基本方針」を見ると、高い学力を求めているようでもあり、障害のある生徒などはますます入りにくくなるのが懸念される。 準義務化された高校教育において、公立高校は共に学ぶことを希望する全ての生徒を受け止めるべき。そのためには入学選抜制度を変える必要があるが、定員内不合格をなくすだけで、低学力や知的障害のある生徒を受け取ってきた、定員割れの高校の存続に努めるべき。 県内のどの子も高校で受けとめて育てていく視点で、学校数や方針を検討し直してほしい。	特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性の応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	C

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
94	全般	秩父高校と皆野高校の統合 越生高校と鳩山高校の統合 統合して新校にすれば聞こえはいいが、一方の高校が廃校になるということ。皆野と鳩山には高校がなくなるということになる。どの市町村にも少なくとも小中学校と高校が設置され、普通教育が保障されなければならないのではないか。生徒数の減少を理由にしているが、廃校になったところはますます人口減となったりして廃っていくことも懸念され、単に学校だけの問題ではなく、町に関わる問題であるとも言われている。 高校が遠くなると、障害のある子どもは通学が難しくなったり、家庭の経済状況が厳しいと交通費が大きな負担になりあきらめざるをえなくなったりすることも考えられる。 「県立学校をめぐる現状と課題」の中に、「地域活性化の観点から、地域における学校の役割が大きくなってきています。そのため、学校には、地域と連携して地域とともに活性化を図る取組がますます求められます。」とあるが、高校をつぶしてしまえば、活性化も何も無い。活性化に逆行する。	再編整備を検討する際には、地域バランス等を考慮して検討しております。 また、再編整備により、進学を希望する生徒にとって、過剰な遠距離通学を余儀なくされたり、進学を断念するような事態が生じないよう、地域ごとの募集学級数を調整するなど、丁寧に対応させていただきます。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、これまでの教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	C
95	全般	県教委は、再編整備を進める観点の一つとして、「生徒募集が困難」な学校を上げているが、八潮市では人口増なのに、高校を減らそうとしている。将来に責任を持つ計画ではない。生徒が減っているからと、高校をつぶすのではなく、今こそ、少人数学級にして、先生の負担も減らし、子どもたちの教育環境を整備することが大切。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
96	全般	皆野高校は、生徒の考案したいのしかパーカーが町おこしの一つになっている。生徒と、地域が一体化し、街づくりに貢献している。そもそも、今回の統廃合計画で、4つの「特色」ある高校の設置としているが、子どもたちの将来を、企業の労働者として育成しようとするものであり、子どもの人権を無視したものである。競争社会に追い込むのではなく、その年齢にふさわしい経験と、交流や、感動を得ることのできる教育環境、条件を満たすべき。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
97	全般	1999年度から、2013年度までの期間に、「21世紀いきいきハイスクール構想」県立高校の統廃合を強行し、全日制高校19校、夜間定時制高校14校の統廃合が強硬された。 統廃合計画は前知事時代に作られたもの。大野知事が理念とする「県民の誰一人取り残さない」に反する。教育委員会は、存続を前提として魅力ある高校づくりを進めるべき。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
98	全般	高校統廃合の理由の一つに、今後の公立中学校卒業生の減少を理由に挙げているが、学校を統廃合するのではなく、1学級30人以下の「少人数学級」を生徒減少期の今こそ実現し、教職員の負担を軽くし、子どもたちの学ぶ環境を整えるべきと考える。	高等学校においては、少人数学級に関する制度改革は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。	D
99	全般	教員不足を根本的に解決しなければならない。大変に過酷な労働である。まずは、この教員不足を解消することも喫緊の課題。	学校における「働き方改革」を含め、教育条件の改善は重要なことと認識しております。そのため、学校における働き方改革基本方針に基づく取組を適切に推進するとともに、教育条件の改善と教職の魅力向上に向けて、引き続き、努めてまいります。	C
100	全般	特別支援学級の増設も考えるべき。効率とか、成果とかを追うのではなく、人格形成の大切な時期に、先生も生徒もゆとりある教育環境が必要。	頂いた御意見は今後の参考とさせていただきます。	C
101	全般	高校統廃合ではなく、教師の増員、少人数学級の推進で、その地域の核となる学校を残すための計画にすべきと考える。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
102	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際高校と和光高校の統合に反対である。両校は偏差値、校風共に大きな差がある。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
103	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際高校と和光高校は偏差値が異なる学校である。近い偏差値だと他にもあるが、なぜ、この2校なのか。もし統合した場合、和光国際高校の学力レベルは下がってしまうことはあるのか。和光国際高校の質の低下を大変心配している。開校までの3年間、和光国際高校の授業や受験対策に影響は出るのか。子どもたちの学びの場が乱れるのではないかと心配している。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。また、開校までの3年間についても、授業や受験対策を含めた進路指導などは、和光国際高校の学びの場が乱れることがないように、現在定められている教育課程に基づいた教育活動を引き続き実施してまいります。	C
104	和光国際高校と和光高校の統合について	両校ともに、特色あふれる学校として地域住民に愛されているものの、少子化により両校が合併になることは、ある程度は避けられない事案であると考えている。その一方で、和光高校は少人数教育、和光国際高校は外国語教育を売りとした学校であり、前者は就職活動をする生徒が多く、後者は大学進学を志す生徒が多いと学校の特色も大きく異なるのが事実。とりわけ、和光高校の志望者数が低下しているという事実を考えると和光高校の改革が必要であると考えている。具体的には看護や社会福祉などは担い手が少なく、今後の埼玉県、日本の情勢が少子高齢化社会へと片足を踏み入れているという事実を鑑みると、そのような専門的な教育を行う高校への転化を図ることによって、和光高校の魅力が増すのではないかと考えている。埼玉県には看護科が学べる高校が常盤高校しか存在せず、地域的偏差を考えると和光高校で看護教育などの専門的な教育が行えるように改革を行うことが必要なのではないかと考える。安易に国際教育、外国語教育を行う高校を和光市南部に作るというのは、地元住民に愛されてきた和光高校の特色を奪いかねないという印象を持っている。また、和光市は南北格差を抱えており、北部に高校が無くなるというのは地域の紐帯を奪いかねないという危惧もある。専門的な教育への転化を進めていくなどして、統合を再考していただきたい。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光市にある県立高校が1校になっても、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいけるよう、検討を進めていきたいと考えています。	D
105	和光国際高校と和光高校の統合について	以下の理由から和光高校と和光国際高校の合併に反対する。 ①新校の基本方針が現和光国際高校のものと変わらないため。和光高校と合併せずとも、新校の基本方針を達成することは十分可能である。 ②偏差値が開いており、これまでなかった弊害が発生する可能性が高いため。和光国際高校の卒業生は母校愛に溢れている人が多い印象がある。和光国際高校は和光国際高校のままで、校風も制服も校歌も名前も伝統も、なにひとつ変わってほしくない。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光国際高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
106	和光国際高校と和光高校の統合について	「廃校」より「合併」という言葉を使った方が良い理由があるなら、その理由を説明してほしい。説明不足であり、どうしても利点を見いだせず、納得できない。和光国際高校と和光高校の合併について再検討してほしい。どうしても合併が必要ならば、その理由を私たちが納得できるように説明してほしい。	案においては、2校を統合し新しく高校を設置するものであり、各校の取組を新校に引き継いでいくため、「統合」と表現しています。どちらか一方だけを残しもう一方を廃止する趣旨ではありません。また、県立高校の再編については、公立中学校卒業予定者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光国際高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
107	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際高校と和光高校の合併はさまざまな観点から中止すべき。まず、両校の学力差が顕著である点。異なる学力差の生徒が入り混じった県立高校など前例があるのか。中学校同士を合併させるのとは訳が違うという自覚を持っていただきたい。次に新校の設立がグローバル人材の育成という目的にそぐわない点。和光国際高校は30年以上前からグローバル人材育成のために外国語科設置をはじめさまざまなテコ入れを行ってきた。両校の統合で、何のメリット・魅力が生まれるのか。代替案として、和光高校は数年以内に生徒の募集を中止して最後の3年生が卒業次第校舎を畳み、和光国際高校は校名や校風はそのまま、従来通りグローバル人材の育成に取り組んでいただくのはどうか。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光国際高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
108	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際高校の文化祭文化を、新校にどのように引き継ぐつもりか記載願う。	新校の指導方針につきましては、実施方針の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。なお、統合する両校の文化祭などの学校行事も参考としながらも、新たな学校の文化祭については、当該校の教職員や在籍生徒が、地元関係者の御意見を踏まえながら、主体的に決定するものと考えています。	E

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
109	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際高校は、元々国際的な感覚や語学が身につく高校であり、なおかつ国際に関する学科の中心的役割はすでにあるにも関わらず、わざわざ特色の違う他の学校を統合する理由がわからない。 現在の和光国際高校の場所に新校を設置するのであれば、そのまま和光国際高校としてほしい。和光高校とでは校風や生徒の特色がまったく違うので、バランスが取れないのではと思う。 どうか、和光国際高校の名前、校風、雰囲気等をそのまま残す形で進めてほしい。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象先とするともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とする。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 頂いた御意見については、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
110	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際は毎年入試の倍率も高く、定員割れとは無縁。学力のレベルも開校当初から変わらず高いまま安定しており、開校から35年経って進学実績も上がっている。 今では少林寺拳法部が活躍していて、インターハイに出場・入賞までしている。和光国際は単独で十分成り立っている学校。統合や再編される必要も意味もない。 再編のコンセプトに「グローバル」の文言があったが、それは既に和光国際でやってきていることだと思う。 和光高校と和光国際とは全く接点がない。 和光高校を再編・統合するなら、市外でも別の高校との方が良いのではないかと。統合などしてしまっただけで、今まで築き上げてきたものが変わってしまう、なくなってしまう。 この統合・再編には断固反対する。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象先とするともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とする。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
111	和光国際高校と和光高校の統合について	和光高等学校と和光国際高等学校（以下、和光国際高）の統合について、母校がなくなってしまうことは非常に残念。できることなら、和光国際高は和光国際高のまま、今後も県立高校の一つとして在り続けることはできないのか。 外国語学科が併設されている高校の中でも唯一の2クラス制、第2外国語の授業を始めとした特色ある外国語学習、留学実績など、和光国際高校だからこそできる学びの場があると思う。 新校の基本方針にも『国際感覚を身につける』『異なる文化や価値観を尊重する態度を育成する』とあるが、こちらは和光国際が取り組んできたものとほぼ同一だと思うし、統合するのではなく引き続き和光国際高校で取り組んでいけるのではないかと。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象先とするともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とする。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
112	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際高校と和光高校については、学校の偏差値、試験問題の難易度、学校のレベルが異なるので、合併には無理がある。統合しても良いと思う根拠は何か。 新校の国際的人材云々は和光国際高の現方針そのものであり、和光高校を廃校とするべきではないかと。 在校生や保護者、卒業生、教職員は納得しているのか。学校の伝統をどう守っていく方針なのか。在校生、OB、保護者への説明会を強く希望する。 東京都の合併事例では近隣校を安易に合併するのではなく、偏差値の近いレベルの学校を統合し新しい価値を作っている。 今回の統合は普通科のみの新座高と和光高を統合し新しい価値を創造するのが適切だと思われるがそうならなかった理由は何か。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模の維持が困難な学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象先とするともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とする。なお、各校の伝統をどのように引き継いでいくかについては、実施の方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。	D
113	和光国際高校と和光高校の統合について	新校の基本方針（和光高校と和光国際高校の統合） 「◇ 自国の伝統や文化を理解し、異なる文化や価値観を尊重する態度を育成するとともに、SDGs※などの地球規模の課題の探究活動に取り組みます。」とあるが、SDGsに包含されているのかもしれないが「(LGBTQ等)人の多様性を理解・尊重する態度の育成」を取り入れて頂くとともに生徒が理解できるように明記して頂きたい。	頂いた御意見については、今後、「新校基本計画検討委員会」や「新校準備委員会」等を立ち上げ、地元関係者や学校関係者の意見も伺いながら、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
114	和光国際高校と和光高校の統合について	和光高校と和光国際高校の表記順序について 50音順でも歴史的にも和光高校が先であり公文書等への表記順序を順守して頂きたい。	案につきましては、新校が設置される学校を先に、校舎を閉じる学校を後にするよう統一して記載しています。	D
115	和光国際高校と和光高校の統合について	廃校となる和光高校への対応 和光高校を必要とする生徒のため、閉校する日まで県が責任をもって学校経営を行うので安心して学ぶことができる旨の明記を願う。	案につきましては、県立高校の再編整備を進めていくにあたり、統合による新校の概要及び基本方針を中心に記載させていただいております。なお、県立高校の管理につきましては、設置者である県教育委員会が責任をもって対応いたします。	C
116	和光国際高校と和光高校の統合について	廃校となる和光高校への対応 PTA・後援会で導入した普通教室等のエアコン運営について ア 本エアコンは、PTA保護者から毎月徴収する負担金で運営されており、生徒が減少する令和6年度以降も引き続き運営できるよう不足する経費を県予算から補助して頂き、閉校となる令和7年度までエアコンを運営できるようご配慮願う。 イ 本エアコン運営に係る契約相手方（レンタル業者）との契約が満了する前に廃校となり契約不履行等が生じた場合の契約相手方（レンタル業者）との交渉等は県が責任をもって行って頂き違約金等が発生する場合は県予算で執行して頂けるようお願いする。	PTA・後援会につきましては、学校と密接な関連を有しておりますが、県教育委員会とは別の独立した団体となっております。そのため、団体の経理につきましては、それぞれの団体において管理していただく存じます。 なお、新校開校までの個別の事案につきましては、学校と相談しながら進めてまいります。	C
117	和光国際高校と和光高校の統合について	廃校となる和光高校への対応 PTA・後援会関連 生徒が減少する令和6年度以降も引き続きPTA・後援会活動を継続できるよう不足する経費を県予算から補助して頂き、閉校まで活動を継続できるようご配慮願う。 特に、学校経営に必要な県予算では手当てできず後援会費が賅っていた諸経費は県予算から歳出して頂き従来どりの学校経営に影響を及ぼさないようご配慮願う。	PTA・後援会につきましては、学校と密接な関連を有しておりますが、県教育委員会とは別の独立した団体となっております。そのため、団体の経理につきましては、それぞれの団体において管理していただく存じます。 なお、学校経営に必要な予算については、県で確保し、学校へ配当させていただいております。生徒が減少する令和6年度以降も、学校経営に必要な予算については、県でしっかり確保してまいります。	C

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
118	和光国際高校と和光高校の統合について	廃校となる和光高校への対応 閉校から半世紀（50有余年）の歴史と伝統を有し地域のニーズに柔軟に対応してきた和光高校に対する敬意と感謝の気持ちを明記して頂けるようお願いする。	案につきましては、県立高校の再編整備を進めていくにあたり、統合による新校の概要及び基本方針を中心に記載させていただいております。なお、和光高校の歴史と伝統、地域のニーズに柔軟に対応してきた事実について、これまで学校に関係してきた方々に対し、敬意と感謝を抱いております。	C
119	和光国際高校と和光高校の統合について	少子化に伴う素晴らしい案だと思う。 ただ一つ、和光高校と和光国際高校の統合ですが、両校の学力差があり、とても統合という表現は当てはまるとは思えない。他の地域も同様の事案があると思う。少子化に伴う生徒数の減少の著しい高校を率直に廃校や閉校との表現は行えないのか。	案においては、2校を統合し新しく高校を設置するものであり、各校の取組を新校に引き継いでいくため、「統合」と表現しています。 新校の教育活動が魅力あるものとなるよう努めてまいります。	C
120	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際高校と和光高校は、様々な点で大きく違う学校。一つになることは、とても現実的ではないと感じる。 特に心配なのは、和光高校と和光国際高校では学力（偏差値）に差があり、今後和光高校へ通うことになるかもしれない子どもたちの選択肢が一つ無くなってしまふこと。中学校には、学力が低く、家庭の経済力も低いという子どもたちが相当数いた。そのような子どもたちにとって和光高校がなくなることは進路(人生)に大きな影響を及ぼす。 子どもの選択肢・学びの場・希望を奪うような統合に反対する。	生徒たちが進学先を確保できるよう、県内各地域における公立中学校卒業生数の今後の推移や地元の高校への進学希望者数等を踏まえながら、地域ごとに募集学級数を調整するなど、丁寧に対応してまいります。	D
121	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際高校と和光高校の統合について、校風等も全く異なる2校を統合することに意味があるのか。統合に反対である。 最近改修工事を行ったと聞いたが、校舎も作り替えると改修工事の意味がなくなってしまうのではないかと。 新校の内容は現在の和光国際高校と変わらないように感じる。統合ではなく、和光高校の廃校という形ではダメなのか。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 また、現在の和光国際高校の場所に新校を設置してまいります。校舎などの施設については、既存のものを有効活用してまいります。	D
122	和光国際高校と和光高校の統合について	和光高校と和光国際高校の統合について 受験倍率や卒業後の進路、学校の特色は大きく異なる両校の統合には大きな違和感を感じる。県は「学校規模が適正でない高校を再編する」としているが、和光国際高校は「学校規模が適正でない高校」ではない。仮に和光高校が「学校規模が適正でない高校」だとするならば「学校規模が適正でない高校」同士の統合が成されるべきと考える。 「学校規模が適正でない高校」ではないが、近隣に普通科のみで距離的にも近く、受験倍率や卒業後の進路も近い状況の高校がある。統合の優先度としてはこちらの方が優先されるべきと考える。 若年人口は減少するのだから和光市が位置する県南西部の人口は増えているはずである。そういった人口が増加している地域の高校を減らすのではなく、人口が減少している地域の高校の統合を優先して進めるべきではないか。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
123	和光国際高校と和光高校の統合について	和光高校と和光国際高校の統合が止まらなかった場合においては、立地においても「国際」という新校の特色においても和光国際高校のものがそのまま引き継がれる形となることから、校名は「埼玉県立和光国際高等学校」、校歌も和光国際高校の校歌が引き継がれるべきである。	校名につきましては、実施方針の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討する「新校基本計画」の中で、決定方法を規定する予定です。また、校歌についても新校の開校準備のなかで検討させていただきます。	C
124	和光国際高校と和光高校の統合について	和光高校のような学校を必要としている生徒や中学生もいると思われる。統合によりそういった生徒や中学生が行き場を無くすようなことがないよう、県は公教育の受け皿づくりをしっかりと行うべきであると考えます。	生徒たちが進学先を確保できるよう、県内各地域における公立中学校卒業生数の今後の推移や地元の高校への進学希望者数等を踏まえながら、地域ごとに募集学級数を調整するなど、丁寧に対応してまいります。	C
125	和光国際高校と和光高校の統合について	和光高校の跡地利用については和光市民の声を必ず反映させてほしい。	跡地等の利活用については、地元の意向等も踏まえながら、県の関係部局と十分に協議、調整し検討を進めていきます。	D
126	和光国際高校と和光高校の統合について	和光国際高校は再編の対象として適切なのか 埼玉県教育委員会の「魅力ある県立高校づくり実施方針策定に向けて（再編整備の進め方）」では、再編募集を検討する観点として、3点を挙げているが和光国際高校はこの3つの観点には当てはまらない。 適切な学校規模の維持について。過去3年間の入学者選抜の資料を確認すると、確かに和光高校の募集人数と志願者確定数は減少している。その一方、和光国際高校の生徒募集の状況は県南西部に位置する他校と比較し、危機的な状況にあるとは言えない。また、1学年当たり6から8学級、1学級あたり40人程度の生徒数が標準とされていることを踏まえても、和光国際高校の学校規模は適切なのではないかと。 また、和光国際高校では特色ある教育が行われている。和光国際高校は県内唯一の国際高校である。その教育内容には特色がある。英語でのプレゼンテーションやディベート、卒業論文の執筆、異文化理解や時事英語、第二外国語の授業、などは県立高校の中でも珍しいカリキュラムだと思う。確かに、県内には外国語に関する学科を持つ高校がいくつかある。しかし、和光国際高校の外国語科は1学年2学級であるという特徴も持っている。県内唯一の県立の国際高校であり、特色ある教育を行ってきた和光国際高校は、十分特色ある学校なのではないか。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
127	和光国際高校と和光高校の統合について	両校の特徴を無視した統合なのではないか 和光高校と和光国際高校は校風、教育方針、偏差値、卒業後の進路などが大きく異なる。この違いを無視して統合を押し進めることで両校の魅力をかき消す、イメージの低下が起こるのではないかと。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
128	和光国際高校と和光高校の統合について	新校の基本方針は現状の和光国際高校ですで行われている、あるいは実現可能なものではないか まず、「国際感覚や語学力を身に付け、国内外で活躍できるグローバル人材の育成」は現状の和光国際高校が掲げる目標と一致している。具体的には、今年度の学校案内に掲載されている「国際社会で活躍する素地となる総合的な学力を培い、将来の目標に向けた希望の進路実現を目指します。」や「語学力の育成とともに国際社会で活躍するための力を育みます。」という部分と共通している。また、異文化理解や時事英語といった授業内でSDG sなどの地球規模の課題が扱われた。さらに、和光国際高校は県内唯一の国際高校としてすでに国際に関する学科の中心的役割を担っているのではないかと。	今回の再編では、新たに3校に「国際に関する学科」を設置します。新校は、これまで実践してきた教育活動を引き継ぎ、発展させ、「国際科」として進化していくために中心となる役割を担うことを考えています。	D
129	和光国際高校と和光高校の統合について	なぜ「統合」と表記しているのか 「魅力ある県立高校づくり第2期実施方針(案)」で示された入学者募集や新校の方針は、事実上の和光高校の廃校を意味しているのではないかと。なぜ、「統合」という表記なのか。	2校を統合し新しく高校を設置するものであり、各校の取組を新校に引き継いでいくため、「統合」と表現しています。どちらか一方だけを残しもう一方を廃止する趣旨ではありません。	D
130	和光国際高校と和光高校の統合について	同じ偏差値帯の学校同士ならまだしも、学力の差が大きく開いているところでの統合はいいか。低い偏差値帯の層の進学する受け皿の確保はできているのか。疑問である。真の意味で活性化はできるのだろうか。新座北高校と所沢東高校が統合してできた新座柳瀬高校のように市を跨いでの統合は難しいのか。統合するのであれば同じ偏差値帯の学校同士にするのが妥当であろう。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光国際高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光国際高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 また、生徒たちが進学先を確保できるよう、県内各地域における公立中学校卒業生数の今後の推移や地元の高校への進学希望者数等を踏まえながら、地域ごとに募集学級数を調整するなど、丁寧に対応してまいります。	D
131	和光国際高校と和光高校の統合について	方策を読む限り、もとの校風とほぼ変わらないまま統合しようとしているが、何の意義があるのだろうか。廃校の手順を踏まないばかりに、聞こえのよいように名目上の統合という言葉を選んだのなら双方の在学・卒業生、進学希望者に失礼だと思う。	2校を統合し新しく高校を設置するものであり、各校の取組を新校に引き継いでいくため、「統合」と表現しています。どちらか一方だけを残しもう一方を廃止する趣旨ではありません。	D
132	和光国際高校と和光高校の統合について	この「魅力ある県立高校づくり」における高校の統合案には反対である。少子化が進んでいる中で、高校の数を減らすのは仕方ない。しかし、同じ地域で近い高校だからという理由で、全く異質の高校同士をまとめるのはいいか。国際交流や留学など、和光国際高校ならではの制度や校風があり、将来の夢を見据えて入学を希望する中学生や、将来の夢を見つける場にする生徒もいる。先生方の温かさや生徒の主体性の大きさが、統合することでそれらの校風をつぶしてしまう気がしてならない。前述したような、色々な夢を持っている中学生や高校生の可能性を奪ってしまう気がする。また、和光高校のような校風の高校があることで「高校に行く」ことができる生徒がいることも忘れていただきたい。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な和光国際高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した和光国際高校を統合先とすることで、和光国際高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、和光高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまでの和光国際高校の教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 なお、生徒たちが進学先を確保できるよう、県内各地域における公立中学校卒業生数の今後の推移や地元の高校への進学希望者数等を踏まえながら、地域ごとに募集学級数を調整するなど、丁寧に対応してまいります。	D
133	和光国際高校と和光高校の統合について	こどもたちの、憲法で保障された学習権を侵害するものとして反対し、撤回を求める。 地域の核となる県立学校の在り方について、関係者が知らないうちに話が進むことは許されない。2019年6月に、和光市民から「和光高校が新入生の募集しない」「廃校になるのか」など、保護者から不安の声が上がった。当時の住民の意見は、「以前は、和光高校は底辺高校として学校が廃れた時期もあった。その後、クラスの人数を少なくするなど、学校関係者と、保護者の力で今はとても地域に親しまれる学校として評判がいい」「子どもたちも素直で、川向うの戸田からも通ってくる生徒もいる。地域に必要とされている学校だ」と。 地元の高校がなくなると、遠距離通学をせざるを得ない状況を生み、家庭や学力的に困難を抱えている生徒の行き場がなくなる。和光国際高校と、和光高校はそれぞれが必要な学校。統廃合は認められない。	生徒たちの進学先を確保するよう、県内各地域における公立中学校卒業生数の今後の推移や地元の高校への進学希望者数等を踏まえながら、地域ごとに募集学級数を調整するなど、丁寧に対応してまいります。	D
134	岩槻高校と岩槻北陵高校の統合について	新設岩槻高校の方針について。 今後の少子化に伴い新設高校の特徴がグローバル人材の育成では、入学希望者を一定数確保することは厳しい。 英語以外の語学も積極的に取り入れるなど進学に特化した教育を実施していくことで現役合格を目指すことができる学校として生まれ変わったほうが、私立高校への進学を流出させるのではないかと。高校での勉強で不足する部分を塾や予備校で補うのではなく受験対策の選択カリキュラムをあらかじめ設け、高校での学習をしっかりとすることで、その先の進路が約束できるような学校にしていきたい。	新校の指導方針につきましては、実施方針の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。 頂いた御意見については、新校基本計画を策定する際に参考とさせていただきます。	C
135	秩父高校と皆野高校の統合について	皆野高校の商業系の要素が実施方針に見えない。テレワークが日常化する中でパソコンの授業は大事ではないか。 学力レベルが同じ皆野高校と小鹿野町高校を統合して、場所は今の皆野高校に新しい学校の設置する案はどうか。 秩父高校は進学校として、よりレベルを上げ力を入れてやっていくべきである。私はこの統廃合には反対だ。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とすることで、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
136	秩父高校と皆野高校の統合について	皆野高校と皆野町は地方創生に関する連携協定を締結し、秩父地域唯一の商業高校として、地域産業を支える「職業人」の育成を目指し、皆野高校の魅力化に取り組んでいる最中である。 また、秩父地域1市4町では地域の県立高校4校の存続に向け、連携した取り組みを行っていた。 皆野高校の卒業生は各種職業にて活躍している。そんな自慢の皆野高校を統合するのはかなり悔しく悲しい。 秩父高校と皆野高校の統合の撤回を求める。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とするとして、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
137	秩父高校と皆野高校の統合について	新校の基本方針「自国の伝統や文化を理解し、異なる文化や価値観を尊重する…、地球規模の課題の探究活動…。地域の観光資源を海外に発信することで、地域社会に貢献しつつ、豊かな表現力を身に付ける…」は、この地域で取り組む「ジオパーク秩父」の活動を推進していくことになる。 上記の基本方針を明確化するため、校名を「ジオパーク秩父高校」とすべく、地域に開かれた高校として、①小中学生へのジオキッズ養成（大地の守人を育てる）、②社会人講座などで、高校生と地域の人々が交流できる。秩父ならではの運営スタイルが可能となれば魅力が大きく増してくるのではないかと。 また、秩父には「アニメツーリズム」「発酵（醸造）ツーリズム」「ヘルスツーリズム」など新しい分野の観光形態が芽吹いていることから、ジオツーリズムをベースにこれらを盛り込むとともに、この地域の多様な資源をコーディネートできる（デザインに長けた）人材養成も統合・再編に向けた重要な観点としておくべき。 地域と連携して地域とともに活性化を図る取組はそのとおり。上述したことを踏まえた再編でないという意味をなさない。	新校の指導方針につきましては、実施方針の策定後に、関係者の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。 また、校名につきましても、実施方針が策定された後に着手する、新校基本計画において、その決定方法を規定する予定です。 頂いた御意見については、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
138	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父高校も皆野高校も、長年各地域に根付いて来た学校だけに、統合となると地域の理解や協力も必要かと思う。今回の発表前に、学校関係者はもちろん、地域住民への情報公開や話し合いの場などは持たれていたのか。学校の統合に際しては、丁寧な説明と慎重な対応が必要かと感じている。	今回の統合にあたっては、対象となる適正規模を下回る県立高校へのヒアリングや、所在する自治体との意見交換を実施してまいりました。 また、案の発表後にも、県民コメント制度による意見募集を行うとともに、対象校における学校関係者説明会を開催しております。統合による新校の設置にあたっては、今後とも丁寧な説明に努めてまいります。	C
139	秩父高校と皆野高校の統合について	進学校とされる秩父高校（普通科）と商業科としての皆野高校の統合のイメージは全くなかったため、2校が統合されてどんな学校になるのかイメージしづらいと感じた。 実施方策案では、普通科と国際に関する学科の併設された新校との事だが、秩父高校の伝統を引き継ぎ、これまで通りの進学校としての高い学力を目指すのか。また、その水準に達するのが難しい生徒の受け皿はどう考えるか。秩父の学力水準を高めるために、秩父高校にはある程度の学力水準を保って頂きたい。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とするとして、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 また、生徒が自分に合った進路選択ができるよう、近隣の学校の募集人数の調整等の適切な配慮をしてまいります。	C
140	秩父高校と皆野高校の統合について	近年は発達障害の子供たちも増えており、小中学校の特別支援学級も増えていると聞く。皆野高校では通級を実施しており、支援が必要な生徒を受け入れている。こうした生徒の進学先、学びの場をどの様に考えているのか。 地理的条件から、通学時間や交通費の面から、秩父地域以外の学校に通う事が難しい生徒もいる。社会に生き難さを感じる子供達が安心して通える学校と支援教育を、この機会に改めて考えて頂きたい。 秩父郡市内の子供の減少、高校の定員割れを考えると、新しく特色のある学校作りは必要と感じている。秩父地域の学力向上や、地域の活性化に繋がる様な教育、人材育成になる様な学校を作って頂きたいと願っている。	特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題と考えております。今後とも、特別な支援が必要な生徒がその特性に応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	C
141	秩父高校と皆野高校の統合について	学校は地域の活性化のために必要不可欠なものであり地元の学校が減ることで、地域の活力が失われてしまう統廃合には反対である。 「魅力ある」とは誰にとってなのか、主役は誰なのかを考慮し、地元根ざしている既存の学校については残して頂きたい。 学科再編等で、地域の実情にあったニーズに応じた学校とすることが「未来を創る子供たちを育成する」ことにつながるのではないかと。 1学年1学級でも、地元にも多様な進路に対応し、生徒はもちろん保護者や地域から愛され信頼を得ることが大切ではないかと。工夫次第で小規模校でも「魅力ある」「特色ある」学校ができるのではないかと。 秩父高校と皆野高校の統合について2校を統合することには反対である。 秩父地域では中学卒業生の40%の生徒が秩父地域外の学校等の進路を選択、地域外からの入学は数十名となっているのが現状。 ①統合せず皆野高校については、学科や魅力あるカリキュラム、部活動、地域連携等「ちちぶで世界を学ぼう」等のキャッチフレーズで「全国募集」を行うことを提案する。 ②情報処理科、商業科設置の皆野高校の伝統や特色を生かし、データサイエンス系の学科を設ける。データサイエンスは「未来社会を生きるため」の知識や技能として今後必要不可欠。 ③再編する場合についても国際理解ではなくデータサイエンスなど取り扱う学科の設置を図ることを提案する。 国際理解だけでは今後も秩父地域内から志願者を集めるのは難しい、また地域外からも同様と思われる。ぜひ県内初または県内でここだけという特色化や差別化を図っていくことが重要である。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とするとして、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
142	秩父高校と皆野高校の統合について	<p>少子化の煽りを受けた統合については、やむなく理解する。新校の基本方針について、一部納得できない。説明の中に「皆野町は外国語に力を入れている認識がある」と、言われたが、特化するほどではないと思っている。新校を単に語学力とグローバル人材育成校とするのは、この秩父地域と皆野高校が培ってきたものを軽視しているような気がする。先ず、秩父が観光地であること、自然と芸術と文化とスポーツの町であること、最近アニメ（「あの花」・「ここさけ」・「空青」の三部作）の聖地とも言われていること、「のだめカンタービレ」作者・二宮知子さんは皆野町出身であること、皆野高校が地道な地域貢献活動（秩父音頭交流・ミニ門松づくり・イノシカバーガー・みそぼてサブレ開発）を継続していることなどを考慮すれば、商業科やコンピュータを活かした授業や活動は失くしてほしくない。県内外問わず、アニメファンは非常に多い。</p> <p>越生と鳩山の統合方針にあるように、アニメーション・芸術に関する学科と普通科の併置校として設置した方がまだうなずける。人も集まり、コンピュータと芸術の融合も図れ、地域の財産を利用したグローバル化が図れる。国際感覚や国際理解は確かに重要だが、国際学科と普通科の併置校では、皆野高校の良さが浮かばれない。統合の概要と新校の基本方針の中身を、改めて洗い直してほしい。</p>	<p>皆野高校で実践してきた教育活動の成果を継承するとともに、地域の特性を十分に踏まえた学校の特色化、教育内容の検討を進めていくうえで、御意見を今後の参考とさせていただきます。</p>	C
143	秩父高校と皆野高校の統合について	<p>統合後、皆野高校跡地の使い道について積極的に考えてほしい。</p> <p>皆野高校は、ここ数年定員割れの一途をたどっている。しかしながら、ここ数年、増加する不適応・不登校の生徒を積極的に受け入れて懇切丁寧な指導を継続している。困っている生徒や保護者に寄り添った教育を実践している。改善された生徒も多数いるほどだ。</p> <p>今後を見据えた時、皆野高校がそういった課題を抱える生徒を受け入れる定時制・通信制の高校として生まれ変わるといいなと思ったほどだ。確かに立地条件は良くないかもしれない。しかしながら、この施設・設備を廃棄してしまうのではなく、未来の子供たちのためにぜひ有効利用してほしい。そんな居場所があることで救われる子供もたくさんいる。今後の皆野高校跡地の使途について、詳しく言及してほしい。皆野高校の存在価値を残してほしい。</p>	<p>跡地等の利活用については、地元の意向等も踏まえながら、県の関係部局と十分に協議、調整し検討を進めていきます。</p>	D
144	秩父高校と皆野高校の統合について	<p>統合の概要では、秩父高校の魅力化を推進するための記述と受け取れるため、皆野高校はそのまま廃校になると感じる。これまで取り組んできた商業科の授業についてはどのようにするのか。</p>	<p>新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。</p> <p>なお、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいけるよう、検討させていただきます。</p>	C
145	秩父高校と皆野高校の統合について	<p>現在、皆野高校へ通学されている生徒に対して十分な配慮をしていただきたい。どのように考えているのか。</p>	<p>校舎を閉じる皆野高校の在籍生徒が、充実した高校生活を送れるよう適切な配慮をまいります。</p>	C
146	秩父高校と皆野高校の統合について	<p>町内唯一の高校がなくなるといことは、町の活気もなくなることが考えられる。跡地利用については、埼玉県として積極的に関わっていただき、町の活性化につなげていただきたい。跡地利用はどのようにするのか。</p>	<p>跡地等の利活用については、地元の意向等も踏まえながら、県の関係部局と十分に協議、調整し検討を進めていきます。</p>	D
147	秩父高校と皆野高校の統合について	<p>県立高校の特色化について、学校規模に関わらず学科再編や統合などの記述があるが、人口が少ない秩父地域は、中学校卒業生数も少ないため、単純に高校が減っていくという印象がある。新たな取組として、国で実施している地域みらい留学を秩父地域で取り組む考えはあるか。</p>	<p>頂いた御意見も参考に、様々な観点から県立高校の魅力化について検討し、今後も地域のみなさまの御理解や御協力が得られるよう取り組んでまいります。</p>	C
148	秩父高校と皆野高校の統合について	<p>県立高校の活性化について、近隣学校との統合などの記述があるが、近隣学校の定義はどのように考えているのか。</p>	<p>埼玉県5か年計画等に用いられている、生活圏としての一体性など広域的なまとまりに基づいて区分された10地域区分をベースとし、公共交通機関の利便性などを踏まえて総合的に判断しています。</p>	E
149	秩父高校と皆野高校の統合について	<p>先の説明会では、これから皆野町民が理解してもらえそうな感じは受け取れなかった。秩父高校関係者あて、秩父市の市民への理解としては整った説明と感じたが、皆野町民は残念に聞こえてしまう感想だった。ぜひ、中学3年で最学年としてしまう町の教育環境に町民への理解をどう説明するか、地域の思いをどう収めるかが今後課題かと考える。ぜひ、町民に賛同いただける合併、ひいては子供たちに魅力ある教育環境を地域に残していきたいと願う。</p>	<p>統合による新校が魅力ある学校となるよう取り組むとともに、地域・県民の方々々に御理解いただけるよう努めてまいります。</p>	C
150	秩父高校と皆野高校の統合について	<p>秩父地域経済は他とは違う特色がある。その様な秩父地域の商いの学びを提供してきた皆野高校レガシーが無くなるのは非常に残念。企業がテレワーク等を取り入れることが推奨されている。移住者の拡大に期待するこの地域は、都内から利便性の良い田舎として、まさに人口流入のチャンス。副業が解禁され、社会的起業を考える20～30代が地方の企業と意欲的に関わる動きも出てきている。そのような人達が、ワーケーションで秩父を訪問し、そこから新しい雇用や関係人口作りにつながることを期待しているところ。ビジネス感覚を身につけるには、やはり簿記などの基礎知識があることが必要であると考え。地方で採用された人材は、テレワークが可能となった今では、地元を離れることなく、都内の会社に勤めることができる。ビジネス感覚を磨くことは教養として必要な事であると思うが、言語による壁は今後DX化で解決されるのは目に見えていて、埼玉に多く取り入れる魅力はそこではない。</p> <p>秩父地域は、西武沿線が多くあるアニメ文化、最近来秩される目的のアニメ聖地として注目されている中で、アニメ人材育成でも理解できる。今まで培われてきたモノづくり企業の多い秩父地域では、デジタルファブリケーションを取り入れて、事業を継承したり、起業することも良いと思う。</p> <p>以上のようなこの地域を取り巻く環境、現状からして、この地域にふさわしい魅力ある高校づくりは、皆野高校商業科の親和性から考え、国際感覚ではなくビジネス分野であると考える。</p>	<p>新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。</p> <p>頂いた御意見を参考に、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、学校の特色化、教育内容について検討してまいります。</p>	C

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
151	秩父高校と皆野高校の統合について	統合される2校の学力差は大きいと考える。 皆野高校に教育内容的に近いのは小鹿野高校だが地理的に遠い。秩父農工科学高校は地理的にも近く、教育的にも商品開発など、共通点があり馴染む。なぜ、統合先が秩父農工科学高校ではないのか疑問だ。 県南部や県西部のように、交通網が整備されていない秩父地域は、私立高校は1つも無い。そのような秩父と、他の地域と同様の基準で、地図上の数だけで考えられては、進路の選択肢が少ない、通学できない秩父地域の切り捨てである。 このような違和感のある統合により、秩父で唯一の進学校である秩父高校を廃校にしないでほしい。高校名が変わってしまうことも、伝統の制服が変わってしまうことも望まない。この統合、新校開校に反対。 統合の目的が、魅力ある県立高校づくりというのであれば、皆野高校は秩父農工科学高校と統合し、現在の2校の方針と特色を継承し地域就職100%を目指す専門性の光る学校にして欲しい。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とすることで、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き続きしていくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 また、新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討いたします。 校名や制服につきましては、実施方策が策定された後に着手する、新校基本計画において、その決定方法を規定する予定です。	D
152	秩父高校と皆野高校の統合について	地域に対してのヒアリングがなかったということはどういったことなのか。 参考資料の「1はじめに」のところに「実態を把握するため、学校や市町村を訪問し意見交換を進めてきました。」とあるが、この通知の作成が平成30年4月だが、5年という月日で状況が変わっている地域もある。 直近の調査をしていないというのはどういうことなのか。	平成30年4月の「再編整備の進め方」策定以降、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から継続的に検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 なお、この間、対象となる適正規模を下回る県立高校へのヒアリングや、所在する自治体との意見交換を実施してまいりました。	E
153	秩父高校と皆野高校の統合について	皆野高校と秩父高校が統合した場合、卒業証明書等の発行について、卒業生への周知はどのようにするか。	卒業証明書等の発行につきましては、新校において引き続きしていきます。なお、必要な手続きについては、ホームページ等でご案内する予定です。	E
154	秩父高校と皆野高校の統合について	皆野高校の組織(PTA後援会運営等)はどうなるのか。	PTA・後援会につきましては、学校と密接な関連を有しておりますが、県教育委員会とは別の独立した団体となっております。そのため、団体の運営等につきましては、一般論として、それぞれの団体において検討していただきたく存じます。	E
155	秩父高校と皆野高校の統合について	統合とあるが新校への商業科はどのように取り入れていくのか。近隣の総合学校の小鹿野高校や寄居城北高校には選択科目として商業科目があるが、皆野高校との授業数に差があったと思う。取得できる資格にも違いがあると思うが、どのように対応ができるのか。	秩父高校と皆野高校の統合による新校の学科については、国際に関する学科及び普通科の併置校とすることを予定しています。 新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討いたします。 そのため、商業科の科目をどの程度取り入れるかについても、今後検討していくこととなります。	C
156	秩父高校と皆野高校の統合について	受験に関してはどちらの高校の条件を採用するのか、もしくは新しい条件で生徒を募集するのか。	入学選抜に関する具体的な内容は、新校の開校準備を進める過程で決定してまいります。	C
157	秩父高校と皆野高校の統合について	皆野高校は、中学時代に不登校気味だった生徒や、支援を必要とする生徒を受け入れて、少人数校だからこそその教育があったと思う。 秩父高校との統合となると、このような少数の子ども達はどうに受け入れしてもらえるのか。具体的にどのような施策が検討されているのか。	再編整備により、進学を希望する生徒にとって、過剰な遠距離通学を余儀なくされたり、進学を断念するような事態が生じないように、地域ごとの募集学級数を調整するなど、丁寧に対応させていただきます。 なお、生徒の抱える様々な課題に対する支援は重要なことと考えており、県教育委員会として引き続き対応に努めてまいります。	C
158	秩父高校と皆野高校の統合について	皆野高校が授業で行っているマーケティングでは、「いのしかパーカー」「タコアロス」「イノシカうどん」、現在3年生の「みそポテサブレ」があるが、商業科だからこその授業である。 授業を通して地域との繋がりもあり、「埼玉県高等学校生徒商業研究発表会」で4年連続関東大会出場と優秀な成績を修めている。統合された場合、新校基本方針に地域貢献とあるが、これらの取組は授業時間数的にできるのか。 また、皆野高校のような地域貢献の授業の場合、国際に関する学科や普通科以外の専門の先生の配置はできるのか。 上記に似た内容だが、御守り作り・門松作りの配布。こちらはどうなるか。地域のみなさんが楽しみにしている。 皆野町と皆野高校は町おこしのために地元皆野町と協力し活性化させるために頑張っているところ。皆野高校がなくなれば約100名程の教職員、子ども達がこの皆野町から離れ、今以上に過疎化が進んでしまうのではないのか。このような地域に対する施策等は何か計画されているのか。	新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。 頂いた御意見を参考に、皆野高校が取り組んできた地域と協働した教育活動を引き続きしていくとともに、学校の特色化、教育内容について検討してまいります。	C
159	秩父高校と皆野高校の統合について	参考資料に、適正な学校規模について「地域の教育力の維持・向上の観点から、例外的に4学級程度までの規模とする場合がある」とあるが、少人数クラスの存在も必要だと思う。やはり、皆野高校は少数学校として存続していくのが望ましいと思う。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
160	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父高校と皆野高校の統合について、小鹿野高校についても志願者数等の観点から、統合の検討が必要だと思う。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。なお、高校の現状や地域バランスも考慮し、検討しております。	D
161	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父地域に唯一ある進学高校が秩父高校。特に特進クラスでは、東大クラスの学力を持った生徒もいる。秩父から進学高校をなくすことは、進学する生徒は熊谷方面に出てくださいということになる。それだけでなく、本庄方面の私立学校に優秀な生徒が出て行っている。秩父高校は、進学高校として残すべき。いずれ、秩父地域には、高校は1つになって、皆、本庄方面とか熊谷方面に通学することになるかもしれない。が、今は、進学組と就職組を分けて高校の統合を検討して頂きたい。秩父に魅力ある進学校を置かないと、優秀な生徒は、ますます、秩父から出て行ってしまふ。それが、一番心配。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とするので、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。頂いた御意見については、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
162	秩父高校と皆野高校の統合について	統合後の校名は秩父高校を継承しユニークな学科を設ける 秩父高校は150年の伝統があり、卒業生の人数も多く、地域で愛されている。特に女学校時代の卒業生の誇りは高いものと理解している。合併後の校名は県立秩父高校の名を継承し、その下に特色を持った学科を設けることで柔軟性をもつて対応できる。例えば、芸術文化に特化した学科、国際化に特化する学科、等。それぞれの特徴を掘り下げ魅力あるカリキュラムを構築することが必要である。それは時代ごとに求められる学科も変化していく。それ故に伝統を持つ秩父高校の名はコアな部分であり、そのまま継承することが最も自然であると思う。また、進学校として充実したカリキュラムを持ち、生徒の希望する将来へのステップがかなえられるような学力を強化していくことはもちろん必須。公立高校として家庭環境に関わらず、子どもたちが学びたい希望を取りこぼさないしっかりとサポートを用意すべきと考える。人はかけがえのない財産。	統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。なお、新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。また、校名につきましても、実施方策が策定された後に着手する。新校基本計画において、その決定方法を規定する予定です。頂いた御意見については、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
163	秩父高校と皆野高校の統合について	伝統ある制服にかかる提言 秩父高校の制服であるセーラー服の緑のラインとスカーフは、限られた中でおしゃれをしたい生徒たちにとって、自分らしさを表現する楽しみがある。また、その胸中には秩父高校の生徒としての誇りと責任を育む。ぜひ、この制服を着る選択を残す名案を模索したいと切に願う。ただ、令和の時代においては制服が男女のみの選択肢ではなく、多様性を受け入れ、服装について様々な立場や意見を持つ人々がいるので、多くの異なった分野の方たちが共に議論することが求められると思う。	制服につきましては、新校の開校準備を進める過程で検討させていただきます。なお、御意見につきましては、検討の際に参考とさせていただきます。	C
164	秩父高校と皆野高校の統合について	伝統と新たな価値観の融合 秩父地域の歴史、伝統文化、産業構造、経済活性化などについて、将来を担う若者の未来への考えや意見を積極的に発信する指導と機会を設けることを提案する。地域の様々なジャンルの人々との意見交換などは、自らの考えを他者へ表現するトレーニングにもなる。そこでの達成感、成功体験は生涯の自信と、より良い社会づくりの原動力になりえることはもとより、失敗やあまり成果を得られなくとも、共に歩むもの同士の理解を得ることで共生することの大切さを学べると考える。また、この体験を通して、他国文化との交流、留学生の受け入れなど、人的流動性を増幅していく際にも、互いに豊かな体験を実現できる要素となると思う。	新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。新校の教育活動が魅力あるものとなるよう、頂いた御意見については、検討の際に参考とさせていただきます。	C
165	秩父高校と皆野高校の統合について	社会の無意識の壁を取り除いた価値を持つ若い世代に自信を持たせる 国連でもSDGsテーマの一つになっている多様性と包括性はジェンダーの平等、障がいを持つ生徒、教師、学校スタッフの方々の活動がしやすい社会を共に考えることは社会の基盤。今、ますますインフラを含め実践段階に入っており、国際社会の中ではすでに実行不可欠となっている。様々な社会問題、家庭問題等に気づき、自らの事として考える力を育み、より良い社会を築いていく力が求められる。また、それには効果的なリードにより見守るサポート力が大人に求められると考える。	新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。新校の教育活動が魅力あるものとなるよう、頂いた御意見については、検討の際に参考とさせていただきます。	C
166	秩父高校と皆野高校の統合について	実体験から学ぶ尊さ 社会的ボランティア活動をカリキュラムに含めることも提案する。日本人にありがちな指示待ちではなく、自らの意思で社会活動に参加する体験を通して、かけがえのない学生生活を送っていただきたいと願う。	新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。新校の教育活動が魅力あるものとなるよう、頂いた御意見については、検討の際に参考とさせていただきます。	C
167	秩父高校と皆野高校の統合について	今回の件の計画はあまりにも乱暴である。秩父の地域の状況を考えずにあくまでも数での統廃合計画であるように思えてならない。秩父地域の今の4つの高校があることが重要。(秩父の中で全ての(希望する子)子がどこかに入れる高校があること。)又、秩父中と皆野高では学力が違いすぎる。高校が無くなれば地域の文化が消えること。これらは将来の秩父地域に関わる問題であり、単に高校だけでは無いこと。これまでのように皆野高の生徒で手をかける必要のある子にどのように手立てを講じていくのか。経費節減でなく今こそ子どもたちに本当の教育を願う。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とするので、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。また、生徒が自分に合った進路選択ができるよう、近隣の学校の募集人数の調整等の適切な配慮をしております。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
168	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父高校と皆野高校の統合に反対。 人口減少地域において、県立高校を減らすことは、更なる人口減少につながる。 秩父高校は地域の進学校として普通科を存続するとともに、理数科を新設して、進学強化の体制を構築すべき。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とすることで、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
169	秩父高校と皆野高校の統合について	皆野高校は、商業科を秩父農工科学高校に移管し、県内の個性ある高校生のために天才が集まる高校にリニューアルすべき。飛び級を可能として最低限の関与で生徒の個性を引き出す天才教育の場とする。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とすることで、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
170	秩父高校と皆野高校の統合について	制服や設備ですが、統合となった場合、「LGBTQIA+」の方々への対応はどうか。 「国際に関わる学科」を設けるので、現行のままでは矛盾している。 現在の秩父高校の制服は、セーラー服とスカート・詰襟学ラン。この組合せでは対応できない。また、トイレや更衣室はどうなっているのか。 新校となるので、制服・学校名は変更した方がよい。 子ども達一人一人に寄り添い、より過ごしやすい学校にしていきたい。	制服や施設設備につきましては、新校の開校準備を進める過程で検討させていただきます。なお、御意見につきましては、検討の際に参考とさせていただきます。	C
171	秩父高校と皆野高校の統合について	生徒数の減少はかねてからの課題で、秩父地域は地勢上からも他の地域から通学してくる生徒数は極少数であり、逆に秩父地域から地域外への進学者数は全体の約40%である。この比率は、ここ10年ほとんど変わらず、このままの状況が続けば2030年には、1市4町の生徒数は400名程度になってしまう。 高校数も現在の4校から令和8年度から3校になり、近い将来2校になることは、現状の生徒数から予想される。 専門校である秩父農工科学高校の「高卒就職者」が減少すると地域の企業の就業者にも影響が及び地域経済の衰退にも繋がる。 高校再編成については、単に学力(偏差値)や生徒数だけで判断するのではなく、地域性を考慮した「生きる力・人間力」のある生徒を育てる仕組み作りを行うことが、重要である。 そこで、秩父地域の地域性を活かした下記のようなクラブ活動等の採用で、地域外からの生徒の流入と地元生徒の地域外への流出防止を行うことが必要と考える。 ①長瀬射撃場を活用した「射撃部」の創設 ②ゴルフ部の創設 ③ドローン操縦資格・技術取得のカリキュラム創設	新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。 新校の教育活動が魅力あるものとなるよう、頂いた御意見については、検討の際に参考とさせていただきます。	C
172	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父地域生徒の地域外の高校へ進学する要因の一つとして、私立高校入試日程と公立高校入試日程の期日の乖離が大きく影響している。 私立高校での単願入試では1月下旬には合格者が決定する。一方、埼玉県の公立高校では3月10日前後の合格発表。約1ヶ月半もの日程差があり、早く進路決定したい「生徒・保護者」の私立高校希望が増える要因になっている。高校授業料無償化も大きな要因の一つ。 このようなことから、公立高校入試日程と私立高校入試日程の調整が必要と考える。ぜひ、検討していただきたい。	頂いた御意見は、今後の本県教育行政の参考とさせていただきます。	E
173	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父地域では、平成17年に県立秩父東高等学校と秩父農工高等学校が統合した後、秩父地域の4つの高等学校(秩父、秩父農工科学、皆野、小鹿野)は、普通科、農業科・工業科、家庭科、商業科、総合学科という、異なった学科の高校として、それぞれが特色を打ち出し、それぞれ学校運営に取り組み生徒を育てている。 どの地域でも少子化は高校存続の大きな課題である。それでも、秩父の4高校は、この大きな課題に向かって取り組み、強いスクラムを組んで連携している。その上で、平成31年3月、秩父圏域1市4町のちちぶ定住自立圏構想の1つに「ちちぶ定住自立圏と秩父圏域4高等学校との連携」という施策が打ち出され、協定を締結し意見交換会も発足させた。 秩父都市の首長と高等学校長を核に、秩父圏域全体で強靱な連携体制を組織した。過疎化の進む秩父地域の子供たちが、地元で特色ある学びを受けるために4高校の存続について協議を進め、データ分析するなどして検討を進めていた。地域全体で、地域振興と高等学校の魅力向上を進めている最中に、このような発表があり、秩父に居住し秩父で学び生活してきたものとして、到底納得できるものではない。	県立高校の再編については、公立中学校卒業業者数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D
174	秩父高校と皆野高校の統合について	どのような新校を中学生や保護者、地域が望んでいるのか意見を述べたい。 現在の秩父高校の場所は、住宅街の細い道の先に位置しており、大型バスなどは到底、学校には入れない。バスが通れる道まで徒歩7・8分かかり、バスが待機できる場所もない。このような秩父高校の場所に、なぜ新校なのかと疑問に思う。例えば、秩父東高校の跡地などのほうが新校の場所として適地かと思う。校名も制服も新たなものにしてほしい。	校名につきましては、実施方策が策定された後に着手する、新校基本計画において、その決定方法を規定する予定です。 また、制服につきましても、新校の開校準備を進める過程で検討させていただきます。 なお、御意見につきましては、検討の際に参考とさせていただきます。	C

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
175	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父地域で、進学を目指す普通科の秩父高校は必要、もっと元気になってほしい。しかし、現在、定員が割れている状況の秩父高校は、本気で勉強して進学を目指す生徒に加えて、あまり勉強が好きでない生徒も入学できている。そのため、本気で勉強を目指す生徒たちが、地元の進学校である秩父高校を敬遠して、遠くても本気で勉強する生徒ばかり集まる公立高校や私立高校に流れている、という情報を中学校の先生から聞いた。よって進学重視の普通科の枠をもう少し絞って良いのではないかと。実質は皆野高校の廃校だ、と言われたいように新校づくりを検討していただきたい。 皆野高校は、現在も皆野町・秩父市などと密着した教育活動を継続して実践している。生徒数は少ないが、元気に取り組んでいる皆野高校の精神を受け継いだ学びを展開する特色ある学科を新設してほしい。「国際に関する学科」との発表だが、英語などを学び留学するなど、海外に飛び出すこと等を中心に想定するだけではなく、海外から日本・秩父地域に来る外国の方々をもてなすために、地域の事を学び、知り、体験して、積極的に対応できる人材、ディスカバージャパンの精神で、美しい秩父地域を紹介することで、国際化に貢献する人材づくりのできる、地域と一体となって取り組む学科を検討してほしい。まさに現在、皆野高校生徒たちがチャレンジしている取組に近いものがある。地域と一体となって取り組む学科を検討してほしい。 進学重視の普通科と、地域密着型の地域事業やビジネスに進出し、海外からも国内からも人を呼び込むことができる、社会に溶け込んだ学校、秩父地域の地盤を活かした、秩父ならではの学校が作れるのではないかと。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とすることで、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 新校の指導方針につきましては、実施方針の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。 新校の教育活動が魅力あるものとなるよう、頂いた御意見については、検討の際に参考とさせていただきます。	C
176	秩父高校と皆野高校の統合について	実施方針案を見るに、皆野高校の特色である、商業、情報処理といった単語がない。そのため、統合ではなく、実態としては皆野高校の廃止という印象を受ける。 皆野高校は秩父地域唯一の商業高校であり、これが廃止になれば、秩父地域の高校生が、商業、情報処理を学ぶ場がなくなる。 近年ますます情報化が進み、情報処理の重点が高くなり、システムエンジニアも人気の職業となる中で、時代に逆行している。 共に普通科を主とする小鹿野高校と秩父高校の統廃合ならまだしも、秩父地域唯一の商業高校として特色ある皆野高校の廃止と受け取れる当案の見直しを求める。 交通事情として他地域への通学が困難な秩父地域において、公立高校四校の存続を強く希望する。少子化により統廃合を行うのは止むを得ないとすれば、商業科・情報処理科を秩父地域内の高校に新設するなどの、商業科・情報処理科を含む多様な選択肢の存続を希望する。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とすることで、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 情報処理や商業科の学び等に関する、新校の指導方針につきましては、実施方針の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討いたします。	C
177	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父高校と皆野高校の統廃合をやめて欲しい。 秩父高校は学校が少なくなるにより通学費が高くなり通えない生徒が多く出てくる。 皆野高校では、少ない生徒の指導で、小中で見過ごされてきた生徒に行き届いた教育ができ自立支援に大きな力となってきた。本物の教育ができていた。また、通級の指導がどうなるのか不明である。 地域に根ざした教育が進んでいたのが高校生世代として地域とのつながりが崩れてしまう。地域の文化が壊れてしまう。 以上のことから統廃合には絶対反対である。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とすることで、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 特別な支援が必要な生徒への指導につきましては、通級による指導も含め、重要な課題であるとと考えています。特別な支援が必要な生徒がその特性に応じた支援・指導を受けられるよう努めてまいります。	D
178	秩父高校と皆野高校の統合について	小鹿野高校と皆野高校は募集定員に対してともに充足率が低く、著しい定員割れが続いている。しかし、両校はそれぞれ地域における重要な役割を担っている。学校行事を地域に開き探求活動を地域の方々とともに共同で行い地域の行事にも積極的に関わる中で地域活性化にも大きく貢献している。 それだけでなく、小鹿野高校、皆野高校でなければ通えない生徒、両校だからこそ学び直しや成長のし直しをし自信をつけて進路実現できる生徒が多い。ほとんどといってもいいかもしれない。先進的な進学指導や専門教育とは違った形での手のかけ方が必要な子どもたちの学びを保障する学校として、両校は欠くことのできない存在である。 そうした小規模校、少人数学級ならではの細やかな指導や家庭的な雰囲気求めて、両校には両町以外に秩父市や他市町村から通学する生徒も少なくない。同時に広い小鹿野町や皆野町では、公共交通機関がない、あっても極めて便の少ない地域に住む子どもたちがいる。親や祖父母が自家用車でやっと学校まで送迎している。統合された場合、皆野町の山間部に住む生徒の高校通学が保障されるかも心配される。 もはや高校全入時代と言っている。学びたい生徒にはどの子にも高校教育の機会と、そこで成長する権利が保障されるべき。確かに現在は多様な高校が存在する。しかし現在皆野高校や小鹿野高校に通う生徒たちは秩父地域外の学校に通うことが経済的にも精神的にも(小中時代にいじめにあったり不登校だったりした生徒が多い)困難な生徒が多い。 今回の(案)はそのような秩父地域の実情や皆野高校の役割を見ず、生徒数だけで練られた(案)のように思える。よって、白紙に戻して地元や中学、高校の意見を十分聞いてもらいたいと願う。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。 なお、生徒の抱える様々な課題に対する支援は重要なことと考えており、県教育委員会として引き続き対応に努めてまいります。	D
179	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父高校と皆野高校に関する再編統合計画について反対。 秩父地域は秩父谷の特別な地政学的位置の中で、秩父地区4高校の個性的な高校が一体となって、秩父地区の高校教育を担っている。役割の異なる秩父高校と皆野高校を統合するのはありえない選択肢である。 皆野高校は、卒業生が秩父の産業や商業の発展のために、秩父に残って定着して、秩父のために尽力している。秩父地域の今後の未来のためにも皆野高校は重要な役割を果たしている。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
180	秩父高校と皆野高校の統合について	「(2) 県立高校の活性化」、「再編整備の進め方」、「地域区分等」について秩父高校は四方を山に囲まれ、北の群馬、西の長野山梨、南の東京とは高い山に、東も秩父の山に隔てられ、他地域から容易に秩父地域の高校へ進学できる地域ではなく、いわば、“離島”のような状況にある。 また、若い世代は概して「上り」指向であり、住んでいる場所よりも時の方向に目が向いてしまっており、隣接する北部西部地区から秩父の高校を目指す生徒はほんの一握りである。 再編整備の観点からは生徒募集が困難であり将来もその傾向が続くと認められるときは再編対象とみられているようだが、秩父地域の継続する地域の著しい人口減少からくる生徒の減少には、現在、埼玉県では認めていないが、小規模となった高校の「生徒全国募集」という地元のチャレンジを認めるべきである。 その理由の一つ目として、秩父地域の皆野高校、小鹿野高校は国が認める「過疎地域」に存在するからであり、過疎地域には例外的規定が必要である。 理由の二つ目として、先にも述べたように地域特性から秩父地域はややもすると、子どもごころからの人間関係や関心が地域の中に限られてしまう可能性があることから、全国から異なる文化の中で育ってきた様々な生徒との「異文化的交流」が図られることは、逆に自分たちの地域を改めて見つめ直す機会にもなると考えられる。 国が過疎地域として特段の配慮を認める秩父地域について、100万都市も抱える埼玉県がいつまでも県内一律のルールに固執するのは極めて不合理である。 隣接県協定のある福島県においては、既に生徒の全国募集にチャレンジしている。 全国募集を行うためには、地元の市町村・地域の相当の覚悟が必要ですが、地元がその覚悟を決めたときは、そのチャレンジを積極的に応援する埼玉県であってほしい。	頂いた御意見は、今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
181	秩父高校と皆野高校の統合について	「皆野高校は統合ではなく廃止」が良い。魅力ある県立高校づくり第2期実施方針(案)秩父高校と皆野高校の統合内「新校の基本方針」に皆野高校の要素がほぼ無い。皆野高校は廃止し「新校の基本方針」自体は秩父高校単独でのアップデートに活かせば良い。 「少子化時代において皆野高校は社会的にその役割を終えた」という理由であればキリがつけろ。玉川工業高校同様の方式で、卒業証明書発行手続きを近隣高校で引継げば、廃止という選択肢はそれ自体不可能ではない。 降ってわいた(少なくとも地元の住民はそういう感がある)「秩父高校と統合する」という方式にいきさかの疑問がある。秩父高校を魅力的なものにするのであれば、統合関係なく改革すれば良いのであって、統合することにより秩父高校の「魅力的な部分を打ち消しはしないか」という懸念すら生じている。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とするので、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
182	秩父高校と皆野高校の統合について	ジェンダーフリーがさげられる昨今、時代錯誤な感情かもしれないが、秩父高校の「男子の学ラン・女子のセーラー服」は地元にとっては秩父高校の立派なアイデンティティとなっている。たとえば統合の際「制服を変更します」などとなったら、それこそ魅力半減の本末転倒な策なのではないか。 この施策が「先ず高校へ進学する子どもたちのためであること」であることを覚悟のうえ、執り進めていただくことを切に願っている。	制服につきましては、新校の開校準備を進める過程で検討させていただきます。なお、御意見を頂いたとおり、高校へ進学する子供たちのためになるよう進めてまいります。	C
183	秩父高校と皆野高校の統合について	今回発表された「第2期実施方針(案)」については、極めて問題があるので反対し、白紙撤回を求める。 発表にいたる経過において当該校生徒の意見も聞くこともなく、地域の父母住民の声も聞かず、一方的に方策案を発表することそのものが問題である。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。 なお、対象となる適正規模を下回る県立高校へのヒアリングや、所在する自治体との意見交換をこれまで実施してまいりました。	D
184	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父高校と皆野高校の統合は、目的の異なる学校を無理に統合しようというものであり、地域でも納得は得られない。秩父地域は広大な面積の中に4高校しかない。1校でも減らすことは反対である。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とするので、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 また、交通機関の利便性を考慮しながら、近隣の学校の募集人数員を調整するなど、適切な配慮をしてまいります。	D
185	秩父高校と皆野高校の統合について	秩父高校と皆野高校の統合はあまりにも乱暴な話である。学力の差があまりにも大きい、現秩父高生は進学の足かせになり現皆野高生を見れば高校に進学できない者が生じる。 立地も考慮すべきで、秩父は県内最も交通の便が悪い。山間部では鉄道の駅まで何時間もかかり、バスは少ない。都市部とは別の考え方が必要である。 私は断固反対である。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とするので、皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。 また、交通機関の利便性を考慮しながら、近隣の学校の募集人数員を調整するなど、適切な配慮をしてまいります。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
186	秩父高校と皆野高校の統合について	皆野高校と秩父高校を再編統合し普通科と国際関係の学科の新設した新校でグローバル人材を育成するというのは皆野高校の廃校である。 秩父地域（1市4町）は県内の他地域と異なり、地理的条件による制約が避けられない。高校がなくなれば中学生の進路選択が狭められ、高校通学の大変さや交通費負担増に直結。商業系の学科が無くなることも危惧される。 秩父地域の高校は、それぞれが地域と連携し特色ある教育を行い、総体として地域の教育を支えている。小規模の高校では、様々な事情に置かれた生徒をも受け入れ、きめ細かい密着指導で不登校の克服や学力回復につなげている。生徒が減っているからと高校を減らすのではなく行き届いた教育の実現に進むべきではないか。 皆野高校は開校以来、地域を支える人材を輩出してきた。現在、地域おこしに向けて小中学校などとの交流や連携を進めている。学校が消えることは地域のセンター文化の火が消えること。 こうした見地から当該の統廃合には反対。計画の撤回を求める。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な皆野高校を対象とするとともに、同じ秩父地域に根差した秩父高校を統合先とする。皆野高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、統合による新校の設置にあたっては、地域や社会のニーズに応えるため、皆野高校が取り組んできた教育活動を引き継いでいくとともに、これまで秩父高校が取り組んできた進学に係る教育活動を発展させ、より特色を持たせた学校としていきたいと考えています。	D
187	越生高校と鳩山高校の統合について	「アニメーションに関する科目」は高等学校学習指導要領に定義がない。学校設定科目を想定していると思料しているが、どのように教育の質を担保しようとしているか記載願う。	高等学校学習指導要領には専門美術の「絵画」の中で、「漫画、イラストレーション」として位置付けられています。 また、学習指導要領解説においては、「アニメーションについても、時代や社会背景による表現内容や方法の変化・発展などについて学習を深めることができるような指導が大切である」と言及されています。 なお、「アニメーション」に関する教科目を学校設定科目として設定し、より専門的な学びを展開することも検討しております。	E
188	越生高校と鳩山高校の統合について	越生と鳩山の統合は個人的に面白そうと思った。越生高校にはもともと美術科がある。アニメーション学科を作り将来的にそういう進路を選ぶ方が増えれば良いと思っている。	再編整備は、県立高校の活性化・特色化を図るために推進すべき重要施策と考えています。 学校や地域の状況などを勘案し、県民、生徒、保護者のニーズに応える魅力ある高校づくりに努めてまいります。	B
189	越生高校と鳩山高校の統合について	アニメーションで活躍とあるが、人気の割に低賃金労働との話を聞くため、子供を夢で釣るような学校にならないか。公にノウハウが無いから外部連携は当然だが、外部連携が低賃金労働者の供給源となるリスクはないか。実施方策（案）では粗すぎて評価はできない。	アニメーション・美術に関する学科でのアニメの学びについては、越生高校における美術科を更に充実させ、学習指導要領に基づく専門美術の「絵画」の中で、取り扱うことを想定しています。 また、「アニメーション」に関する教科目を学校設定科目として設定し、より専門的な学びを展開することも検討しております。 なお、外部機関とも連携し、適切な教科指導を図るとともに、生徒の将来を第一に考え、進路指導の充実にも努めてまいります。	C
190	越生高校と鳩山高校の統合について	アニメ産業の過酷な労働環境が話題になったことがあった。スタジオによると思うので、連携する外部機関は、県として企業の信頼性を担保するようにしてほしい。 アニメスタジオとの連携というのは、具体的にどのレベルで考えているのか。「年間数回スタジオに行って教えてもらえる」程度だとすれば、残りの平常授業は「アニメーションに関する科目」を学校教員が担当するのか。そのための人材は確保できているのか。それとも、毎授業スタジオから担当者が来て教えてくれるのか。	県教育委員会として、信頼できる外部機関と連携し、適切な教科指導を図るとともに、生徒の将来を第一に考え、進路指導の充実にも努めてまいります。 なお、具体的な連携方法については、今後検討する教育内容等も踏まえ、調整させていただきます。	C
191	越生高校と鳩山高校の統合について	「アニメーション・美術分野で活躍できる人材を育成する高校の設置」（鳩山高校と越生高校の統合）について、これらの分野は資格があるわけではなく、クリエイティブで専門性が極めて高く、個々の能力が大きく問われる。また、就職希望者に対して実際に就職できる比率は、それほど高くなく、就職できても決して待遇が良いとは言えない場合が多い（多くの高校教員はアニメ、美術系の専門学校への進学を積極的には推奨しないと思う）。そのため、公立の高校で学ばせる意味や意義があるのか、そして教員は教えることができるのか大いに疑問。そもそも地域・県民の期待や社会のニーズはあるのか。それでも、この新校の計画を進めるのであれば、アニメーションや美術分野以外の普通の進路選択（進学、就職）についても不利にならないよう、基礎学力もしっかり学べるカリキュラムを準備する必要がある。（このエリアは、受験生にとって選択できる学校が決まってしまう）。また、この分野は高校卒業後に専門学校等に行ってから就職するのが一般的だと思うが、この新校の場合は高校卒業後にどういったルートでアニメーションや美術関係の仕事に就くことを想定しているのか、ビジョンをしっかりと明らかにした方がよい。美術やアニメに興味のある生徒はたくさんいると思うが、卒業後の進路がある程度保証されないこと、最初は生徒が集まったとしても、長期的には生徒募集は厳しくなっていく。	アニメーション・美術に関する学科でのアニメの学びについては、越生高校における美術科を更に充実させ、学習指導要領に基づく専門美術の「絵画」の中で、取り扱うことを想定しています。 また、外部機関とも連携し、適切な教科指導を図るとともに、生徒の将来を第一に考え、進路指導の充実にも努めてまいります。 なお、基礎学力をしっかり学べるカリキュラムという御意見については、今後の教育内容の検討の際に参考とさせていただきます。	C
192	八潮南高校と八潮高校の統合について	八潮高校を八潮南高校に統合する案について 少子化で生徒募集が困難になってきている現実はあるが、今こそ、1クラスの人数を減らして、少人数学級にし、行き届いた教育を実現してほしい。	高等学校においては、少人数学級に関する制度改正は行われておらず、少人数学級を適正に実施するためには、国において教員定数などの改善が必要です。	D
193	八潮南高校と八潮高校の統合について	大学へいくのが普通になりつつある今、進学に力を入れてもらえるよう希望する。学習塾に通ってないと進学できない状況を作らないでほしい。	新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。 頂いた御意見については、新校基本計画を策定する際に参考とさせていただきます。	C
194	八潮南高校と八潮高校の統合について	越谷・草加には4校、三郷には3校あるのに、八潮には2校しかないのに1校にしてしまうのが残念。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な八潮高校を対象とするとともに、同じ八潮市に根差した八潮南高校を統合先とする。八潮高校の伝統を残していきたいと考えています。	D

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
195	八潮南高校と八潮高校の統合について	八潮市の二つの高校の統廃合の見直しを求める。 八潮市では、今後「10から20年間」小中学生が増えるとされている（八潮市学校適正配置指針・計画 令和2年3月）。 このことから、将来、高校入学時の進路選択に支障のないようにすべき。 統廃合時期の画一化をすべきではないと考える。 前項の理由とも関連するが、地域特性を考慮すべき。 県全体では、中学卒業生が大きく減少する（p6）とされているが、八潮市では小中学生が増えるとされている。 したがって、「令和6年度」から募集を停止するという計画の見直しを求める。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。 今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な八潮高校を対象とするとともに、同じ八潮市に根差した八潮南高校を統合先とする一方で、八潮高校の伝統を残していきたいと考えています。また、生徒たちが進学先を確保できるよう、県内各地域における公立中学校卒業生数の今後の推移や地元の高校への進学希望者数等を踏まえながら、地域ごとに募集学級数を調整するなど、丁寧に対応してまいります。	D
196	八潮南高校と八潮高校の統合について	「八潮高校と八潮南高校の統合」について、反対、見直しを求める。 八潮市は、つくばエクスプレスの開業に伴い、人口増加が続いており、児童生徒数も増加傾向にある。 八潮市は、令和8年開校予定で、市内11番目の新設小学校を建設中であり、この年に八潮高校と八潮南高校を一校に統合することは、児童生徒数の増加に対応していないと考える。 毎年、40名前後の市立中学3年生が八潮高校を希望し、受験している。 こうした市内在住生徒の行き先を奪うことになる。 希望するすべての生徒の高校教育を保障することは時代の流れであり、社会の要請でもある。そうした場を狭めることになる。 生徒の家庭の経済的負担軽減からも地元において徒歩、自転車等で通学できることは高校教育にとって極めて重要である。 県の財政的な理由での県立高校の再編整備、統廃合は、次代を担う子どもたちの高等教育の機会を狭めるもので、認められない。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。 今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な八潮高校を対象とするとともに、同じ八潮市に根差した八潮南高校を統合先とする一方で、八潮高校の伝統を残していきたいと考えています。また、生徒たちが進学先を確保できるよう、県内各地域における公立中学校卒業生数の今後の推移や地元の高校への進学希望者数等を踏まえながら、地域ごとに募集学級数を調整するなど、丁寧に対応してまいります。	D
197	八潮南高校と八潮高校の統合について	八潮高校と八潮南高校の統合について 高校再編の観点で、生徒募集が困難な状況にあり、将来もその傾向が続くと見込まれる、との事だが、八潮市では、現在子どもの人口が増加途上であり、八潮高校においては、体育科以外は、定員割れなどは、起きていない。 また、特色ある学校の設置との事だが、八潮高校は開校から50年を迎え、産学官連携事業で、地元企業や大学と一緒にトマトワッフルの開発に取り組みたりしている。特色は、それぞれの学校や生徒の取組によって出しているのではない。 以上のことから、将来子ども人口が減少するからとか、特色がないとかを理由に統廃合ありきで、一律に進めるのではなく、それぞれの学校や地域の状況などをしっかりと把握して、検討してほしい。 第2期の高校再編をしなければならぬからとの理由で、高校を統合することはしないほしい。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少を踏まえ、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 このことは、生徒数の減少に伴い、活発な教育活動が行いにくくなるなどの影響があるため、より良い学習環境を整備する観点から、検討してきたものです。 今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な八潮高校を対象とするとともに、同じ八潮市に根差した八潮南高校を統合先とする一方で、八潮高校の伝統を残していきたいと考えています。また、生徒たちが進学先を確保できるよう、県内各地域における公立中学校卒業生数の今後の推移や地元の高校への進学希望者数等を踏まえながら、地域ごとに募集学級数を調整するなど、丁寧に対応してまいります。	D
198	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	浦和工業高校は残すべきである。 定員割れを起こしているのは事実であるが、卒業生からすると、母校がなくなるのは寂しいし、思い入れが詰まった校名が無くなるのはとても辛い。 定員割れは教員と生徒の努力で改善できる。 評判を良くするために、浦和工業の良いところの情報を発信し、人気上昇に努めてほしい。 設備システム科は県内唯一の学科であり、魅力的である。	県立高校の再編については、公立中学校卒業生数の減少が見込まれることから、県立高校の教育の活性化の観点から検討してまいりました。 その際、適正な学校規模を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の取組なども考慮しながら近隣の学校との統合を検討することとしております。 そのため、今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な浦和工業高校を対象とするとともに、同一市内に根差した大宮工業高校を統合先とする一方で、浦和工業高校の伝統を残していきたいと考えています。	D
199	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	浦和工業高等学校の指導方針や校名をどうか存続してほしい。	新校の指導方針につきましては、案の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。 また、校名につきましても、実施方針が策定された後に着手する。新校基本計画において、その決定方法を規定する予定です。	C
200	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	工業高校の先進例として春日部工業の名をよく聞か、大宮工業と春日部工業では、近すぎるので、分散配置を検討願う。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な高校を対象とするとともに、同じ地域に根差した高校を統合先とする一方で、統合される高校の伝統を残していきたいと考えています。 なお、専門高校につきましては、県全体のバランスも考慮して検討したところです。	E

番号	分野	意見・提案内容	県の考え方	反映状況
201	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	大宮工業高校の現4学科では建物の保守や維持管理に関する学科が無いので設備学科のある浦和工業高校と一緒にすることにより、設備系の学科が増える事を期待する。 学科横断型の課題研究について、仕事では他業種の方との意見交換や調整が発生することもあるので高校生で他学科(他業種)との意見交換や調整を経験できるといのはとても大きな収穫になると思う。	新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。 頂いた御意見については、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
202	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	「大宮工業高校と浦和工業高校の統合」について 「学科横断型の課題研究を通して専門知識の統合を図り、新たな価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成します。」とあるが、「学科横断型の課題研究」のみで専門知識の統合を図ることは難しい。 そのため、「学科横断型の課題研究」を「学科横断型の課題研究等」とすることを要望する。	御指摘のとおり「学科横断型の課題研究」以外にも取り組んでいく必要であると考えます。記載については、他の新校の基本方針との整合性をとるため、「学科横断型の課題研究など」と修正しました。	A
203	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	「機械、電気、建築、ロボット技術及び専門情報に関する学科を置き、先端産業分野で活躍できる人材の育成を目指します。」とあるが、学科再編も視野に入れて検討すべき。 そのため、「機械、電気、建築等に関する学科を置き、社会の基盤を支える分野で活躍できる人材を育成するとともに、ロボット技術や専門情報に関する学科を置き、先端産業分野で活躍できる人材の育成を目指します。」としていただくことを希望する。	実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、頂いた御意見も参考としながら、既存の学科の内容についても、検討させていただきます。	C
204	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	工業高校の統合は、人手不足が深刻な企業から見ると複雑な思いがある。現在、高校卒業後に就職する生徒の半数は普通高校高校卒業者である。しかし、残念ながらその多くが数年で離職している状況にあると、企業の方から聞いたことがある。(数値的根拠はないが) そのため、普通科同士、工業科同士の統合だけでなく、就職する者が多い普通科と工業高校を統合し、工業高校ではなく、工業の匂いがする程度の専門性の学びを通して、働くことの意義等をしっかり学ぶことができる高校を作っていたら、企業側からの理解も得られるのではないかと。また、離職者の減少、税収の安定にもつながるものと思う。	今後の魅力ある県立高校づくりの参考とさせていただきます。	C
205	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	浦和工業と大宮工業の統合について異議がある。 再編検討の観点として、①生徒募集が困難、②特色学校の必要性、③近隣に同様な学校が存在と記載されているが、いずれの点でも再編の組み合わせとして適切ではない。 生徒募集が困難な点について、統合するべきは浦和と三郷または浦和と川口と考える。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な学校を対象とするとともに、同一市内に根差した大宮工業高校を統合先とすることで、浦和工業高校の伝統を残していきたいと考えています。	D
206	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	特色学校の必要性について、「工業」と「情報」という観点ですべてに各学校に既に相当学科が存在する。よって、既に「工業」系学科と「情報」系学科が存在する両校を統合しても新校の概要に記載されている「県内初の工業、情報学科の併設校」にはならない。むしろ、埼玉では建築系の学科が元々少ないので、浦和工業にある設備システムや大宮工業にある建築などの既存の学科を積極的にアピールされる方が良いのではと考える。	情報に関する学科とは、教科「情報」に係る専門学科であることから、既存の工業科とは異なり、県内初の設置となります。新校においては、学科横断型の課題研究などを通して専門知識の統合を図り、新たな価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成してまいります。	C
207	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	近隣に同様な学校の存在という点について、浦和工業と距離的に近い近隣校は川口工業である。大宮工業は川口工業に対して1.5倍の距離があり、さらに近隣駅(東大宮、宮原、今羽)からも離れているため、通学する上ではさらに遠くなる。現状の浦和工業と大宮工業では中途半端な距離同士の統合に見える。 今回、再編の報に触れ、日本、あるいは埼玉の工業人材育成に繋がればと思っていて、残念ながら資料を拝見してもそのように見えなかった為、気がついた点について連絡した。それぞれ歴史がある学校をさらに発展させ、将来の日本を担う人材を育てられるように検討願う。	今回の統合にあたっては、募集学級数や入学志願倍率などから、適正な学校規模の維持が困難な学校を対象とするともに、同一市内に根差した大宮工業高校を統合先とすることで、浦和工業高校の伝統を残していきたいと考えています。 頂いた御意見については、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
208	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	大宮工業と浦和工業の統合と聞いて正直驚きを隠せない。現在の大卒至上主義を考えると、実業系高校の人気の無さを考えると時代を感じる。 現在の各科は、機械科は統合して機械システム科に、電気科も統合して電気システム科に、建築科と設備システムを統合して建築システムとして建築科の中に設備コースを設けると良い。 情報技術と電子技術を統合して情報機械として各コースに分けたら良い。 他に3D CAD 科とか卒業後に専攻科を設けるのも新しい試みだと思う。また近隣の中央高等技術専門学校との連携も一つの手法である。	新校の指導方針につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討させていただきます。 頂いた御意見については、新校開校に向けた準備を進めていく際の参考とさせていただきます。	C
209	大宮工業高校と浦和工業高校の統合について	校名は大宮総合技術高校、大宮工業技術高校、大宮先端技術工業高校のどれかが良い。 伝統ある大宮の名前を残すべき。	新校の設置場所につきましては、案に記載したとおりです。 校名につきましては、実施方策の策定後に、関係校の教職員等から構成される「新校基本計画検討委員会」や地元関係者等から構成される「新校準備委員会」を設置し、検討する「新校基本計画」の中で、決定方法を規定する予定です。	C
210	その他	感染対策について、マスクの強制はやめるようにしてほしい。 免疫力が下がる。 人の自然治癒力や免疫力などもつたえてほしい。 人が人らしくあるような高校であってほしい。	魅力ある県立学校づくり第2期実施方策についての御意見ではないため、御意見については、反映することができません。	E
211	その他	高校でのマスクを任意になるよう求める。マスクには感染防止の効果はない。心身ともにデメリットのみ。	魅力ある県立学校づくり第2期実施方策についての御意見ではないため、御意見については、反映することができません。	E